

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(平成 25 年 4 月 30 日までにご連絡をいただいた方々)

回生	氏 名	死亡年月日	回生	氏 名	死亡年月日	回生	氏 名	死亡年月日	回生	氏 名	死亡年月日
21回	両角 勝	1990/6/2	42回	高橋 碩一	2012/12/4	48回	伊藤 芳明	2013/2/10	58回	小口 崇博	2012/11/27
25回	小泉 真澄	1996/9/20	42回	小澤 清春	2006/4/2	48回	今井 康夫	2010/11/26	58回	桑澤 秀雄	2013/2/17
28回	丸山 純一	1992/	42回	濱 晴雄	2012/5/11	48回	後藤 一輔	2011/9/9	58回	鈴木 保男	2012/10/27
31回	波間 靖夫	2009/9/17	42回	林 裕藏	2012/5/7	48回	小山 登	2011/10/21	58回	内藤 源	2012/5/26
32回	保坂 泰正	2011/8/18	42回	藤森一二雄	2012/6/23	48回	下村 昭一	2011/2/21	58回	藤森 康秀	2011/1/19
32回	細田 元寿	2011/10/14	42回	溝口 勝弘	2011/5/10	48回	中谷 和義	2012/1/28	59回	今井 啓輔	2011/10/18
33回	牛山 一明	2011/8/18	42回	宮坂 長門	2012/11/14	48回	古山 正一	2012/9/	59回	小岩井邦弘	2011/12/25
34回	原田 文吾	2007/12/3	43回	飯田 正雄	2011/10/23	48回	宮坂 博充	2009/1/26	59回	古村 憲資	2012/5/29
34回	延川 千尋	2013/3/17	43回	小河原貞二	2012/5/7	48回	武藤 茂幸	2009/9/19	59回	武井 悟	2004/7/3
35回	小松 清	2013/3/29	43回	小口進一郎	2012/3/1	48回	両角 傳郎	2009/10/12	59回	町田 正美	2009/8/9
35回	貞島 只勝	2009/1/21	43回	後町富貴夫	2010/11/27	49回	片倉 亨	2012/7/22	59回	山崎 弘人	2007/12/5
35回	武居 五郎	2012/2/5	43回	田中 武	2007/4/27	49回	神取 保明	2011/12/19	60回	小口 賢司	2010/12/29
35回	山田 六一	2013/1/16	43回	中島 只一	2011/10/18	49回	酒井 喜彦	2013/1/22	61回	有賀 弘武	2012/10/29
36回	関 良隆	2005/11/24	43回	林 守孝	2011/9/4	49回	林 昭男	2013/1/30	61回	小口 周作	2010/3/9
36回	塚田 威太	2012/2/18	43回	三沢 好美	2009/2/10	49回	古舘 清夫	2005/10/28	61回	下平 政光	2012/3/9
37回	今井 信雄	2008/6/11	43回	宮沢 和高	2011/10/31	49回	宮坂 悦司	2012/2/21	61回	平松 功一	2011/7/15
37回	金子 恭之	2012/2/13	43回	矢島 利正	2012/4/27	50回	青山甲子郎	2011/6/1	61回	宮沢 健	2011/10/19
37回	清水 泰三	2012/6/23	43回	山田 謙	2011/6/24	50回	今井 博康	2013/3/31	61回	矢澤 吉雄	2011/12/19
37回	田中 克郎	2010/8/16	44回	伊東 才治	2013/1/25	50回	岩波 春喜	2008/2/19	62回	長門 肇	2011/6/14
37回	林 房雄	2011/5/29	44回	岩波 充郎	2011/7/29	50回	北澤 文博	2012/6/16	62回	小林 政友	2011/6/21
37回	宮坂 要助	2012/3/31	44回	小松 昇	2007/4/1	50回	小林 正典	2013/1/25	62回	中西 泉	2008/10/20
38回	伊東 義人	2009/7/3	44回	中村 利得	2012/6/17	50回	五味 俊和	2013/1/19	62回	平林 幹司	2007/8/5
38回	立木 正純	2012/12/14	44回	浜 勇夫	2011/1/26	50回	斉藤 忠夫	2012/3/3	64回	小口 英樹	2012/6/21
38回	二木 正人	2011/10/7	44回	林 英一	2012/2/3	50回	関 舜衛	2006/9/23	64回	中澤 正始	2011/4/14
39回	今井 文男	2009/4/28	44回	両角 音平	2012/5/1	50回	田中喜代志	2012/8/2	64回	三木 博也	2010/5/5
39回	竹村 太一	2007/1/7	44回	山田福四郎	2009/8/3	50回	名取賢次郎	2012/1/3	64回	三村 簡吾	2012/7/26
39回	土橋 徹三	2012/4/21	45回	井上 準	2012/6/10	50回	宮坂 忠	2011/12/31	65回	牛山 栄世	2011/12/19
39回	中村平之助	2009/3/19	45回	今井浩一郎	2012/7/25	50回	八幡 等	2012/12/2	65回	大和 勝	2008/
40回	笠原 琢郎	2012/6/15	45回	荻原 春堂	2011/3/18	51回	小口 賢司	2010/12/	65回	清水 利政	2012/4/16
40回	藤森 孝一	2013/2/25	45回	熊崎 義章	2009/12/2	51回	曾根原勇夫	2012/4/8	66回	篠原 寿久	2009/1/15
40回	増澤 一平	2011/3/24	45回	興石 吉良	2006/9/21	51回	内藤 昌	2012/10/23	66回	杉村 潔	2012/11/12
40回	百瀬 茂夫	2012/4/27	45回	中谷 安秀	2009/8/31	51回	露沢 晴彦	2010/1/14	66回	野沢 舜	1999/1/
41回	小口 基裕	2012/12/25	45回	藤田 靖夫	2011/12/15	51回	三村 俊二	2012/6/21	66回	宮坂 俊廣	2012/6/14
41回	小口 正信	2012/6/5	45回	増澤 文夫	2011/3/13	52回	石井 末夫	2001/6/14	68回	原田 安雄	2012/2/27
41回	小池 澄明	2012/3/6	45回	矢崎 智久	2009/1/4	52回	金松 正也	2012/5/14	69回	長田 正克	2000/5/27
41回	小池 正衛	2012/2/19	46回	小口 久市	2013/3/10	52回	庄山 達男	2012/4/16	69回	花岡 和史	2012/2/1
41回	小林 敏秀	2010/7/28	46回	北原 漢	2012/2/8	52回	波多 秀夫	2011/10/4	71回	田中 正幸	2012/9/18
41回	野澤 清志	2010/12/28	46回	五味 大介	2012/11/20	52回	吉澤 鶴久	2012/4/7	71回	樋口 道博	2009/8/19
41回	原田 義武	2011/8/15	46回	水野 昭二	2012/6/1	55回	河西 永吉	2011/1/26	72回	窪田恵美子	2010/7/14
41回	樋口 博康	2012/4/24	46回	関 忠雄	2013/2/4	56回	関 初男	2011/8/13	72回	保科 吉郎	2011/3/29
41回	三沢 光則	2007/2/7	46回	長谷部五郎	2012/1/3	56回	藤森 惇一	2011/11/2	75回	林 孝	2009/9/6
41回	矢島 千晴	2012/10/21	46回	花岡 健雄	2009/6/24	56回	宮沢 勝	2012/1/9	81回	久住 利勝	2010/6/24
41回	山岡 康人	2009/8/30	47回	浅川 孝典	2012/10/28	57回	伊藤 爽也	2011/10/18	81回	倉田千代子	1995/10/17
42回	岩波 清文	2012/5/21	47回	小池 康一	2008/2/	57回	大坪 靖	2012/10/13	86回	今井 昭徳	2011/6/25
42回	矢島 子郎	2012/6/26	47回	土田 富次	2012/11/29	57回	小池 定雄	2012/5/31	98回	濱 孝昭	2012/9/9
42回	小口 國夫	2010/3/14	47回	樋口 平吉	2011/9/29	57回	野口 莞爾	2012/1/1	99回	木下 博人	2012/5/8
42回	工藤 健	2010/10/23	47回	日達 昭治	2011/8/23	57回	宮沢 壮夫	2011/4/3			
42回	城取 昌史	2012/3/31	47回	北城 幹雄	2009/8/22	58回	鮎澤 昶	2012/5/18			

編 集 後 記

今年は総会の特別企画パネルディスカッションと同じコンセプトで会報の特集記事を企画し 80 回生 4 名に寄稿していただきました。これから社会に出て行く若い同窓生のみなさんの役に立てたら幸いです。今回のパネリスト、寄稿者は様々な分野で社会とつながりを持ちながら仕事をしている清陵同窓生のほんの一部です。清陵は間もなく創立 120 周年を迎えようとしている伝統校です。若いみなさんが今後同窓会の集まりにできるだけ顔を出し、先輩と話をしてくれたいです。

編集にあたり、副係長の鮎沢公博君、地区支部だより・学年短信を担当していただいた平澤美保子さん、小口澄江さん、広告担当の関市男君、その他多く同期生に助けていただきました。ありがとうございました。

最後に、発行にあたりご協力を賜りました学校、同窓会事務局関係者の皆様、長野日報社の小口修平さんに深く感謝いたします。

(大久保純男・80 回記)

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第 39 号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392-8548 諏訪市清水 1-10-1 編集：第 80 回生会報部会（昭和 49 年入学）

特集・パネルディスカッションテーマ

学校知から社会知へ

～社会が必要とする真の学力・人間力を求めて～

同窓会には、二つの意義があると思います。一つは、青春時代を同じ学舎で学んだ同窓の交誼を結ぶこと。そしてもう一つは、同窓の先輩として現役の後輩を応援することです。

現役の生徒諸君も我々も、同窓であることには変わりありませんが、現役生と我々を隔てるものは、清陵を卒業し社会人になってからの、30 年を超える経験です。「高い学力」を目指して清陵が中高一貫化しようとする今、社会が必要とする真の学力とは何なのか、30 年の実社会経験というプリズムを通して考察してみたいと思いますので、現役生諸君が将来を考える上でヒントにしていだければ幸いです。(80 回生学年幹事)

定期総会のご案内

平成 25 年度定期総会

日 時 平成 25 年 6 月 29 日 (土) 午後 1 時より
場 所 諏訪市湖岸通り「ホテル紅や」
議 事 ①平成 24 年度会務・会計報告
②平成 25 年度事業計画・予算案審議
③その他

パネルディスカッション (午後 2 時 40 分より)

テーマ：学校知から社会知へ

～社会が必要とする真の学力・人間力を求めて～

懇親会 (午後 4 時 30 分より)

会 費：5000 円

懇親会前売りチケットは当番幹事 80 回生 (代表：松崎寛 TEL: 0266-52-6340)、各地区支部・学年幹事まで。当日受付にても可。
諏訪清陵高校同窓会会長：松下勲 (当番幹事 80 回生、次年度当番幹事 81 回生、サブ幹事学年 90 回生、100 回生)

特別企画パネルディスカッションのご案内

今回のパネルディスカッションのコーディネーターをお引き受けすることになりました。

40 年近く前清陵で学び、大学に進み、社会に出て、現在それぞれの分野の第一線で活躍されている 4 名のパネリストをお迎えします。彼らが清陵で学んだものとは何だったのか、また彼らの中で清陵が今どのように生き続けているのか、そして重要な転換期を迎えようとしている母校へのメッセージは何か、充実した議論になるよう務めさせていただきます。

ところで、私は昨年 3 月まで 9 年間清陵に勤務していました。大学に進学した教員がよくこんな話をしてくれたものです。「大学のゼミ

で教授に褒められました。自ら考えることができる、特に批判的 (クリティカル) 思考ができる、今時まれな学生だ、と言われました」あるいは、「なぜか他の高校出身の学生が子どもっぽく見えてしまうのです。清陵って一体何だったのですか」もちろん最近の生徒たちの普段の言動や外観は昔の清陵生とはまったく異なります。しかし、私たちのころから変わらない何かが今の生徒にも伝わっているのではないかと、大学の先生の評価が高く。「大人っぽい」学生を作り上げた清陵の DNA は存在するのか。学友会などで養われた「自治」なのか、自反而縮雖千萬人吾往矣なのか、あるいは偏差値を超越した清陵のリベラルでアカデミックな

文化なのか。

来年 4 月にスタートする中高一貫は「高い学力」「広い視野」「強い意志」を目標に掲げています。120 年近い歴史をもつ清陵が新たなスタートを切るこの時、母校にエールを送ることができればと思っています。

大学生の同窓生の皆さん、また現役の清陵生の皆さん、将来の進路選択の参考になるかも知れません。ぜひ聴きにきて下さい。お待ちしております。

大久保純男 (80 回生) 記

東京外国語大学英米語学科卒業

1989 ～ 1990 年米国留学

2002 ～ 2012 年清陵高校勤務

現在下諏訪向陽高校勤務

定期総会パネルディスカッション パネリストのみなさん

野曾原悦子 (80 回)

明治大学法学部卒

昭和 62 年 広島市にて弁護士開業 (広島総合法律会計事務所所属)

平成 15 年 平成 23 年広島市監査委員

平成 17 年 広島弁護士会副会長

平成 21 年 広島労働-18 局紛争調停委員会委員

平成 22 年 人権擁護委員

平成 23 年 法テラス広島地方事務所副所長

平成 24 年 中国電力株式会社監査役



私が在籍していたころは、女子には校歌指導もなかったし、地方会にも縁がありませんでした。「清陵では女子は所詮お客さん」などと言われることもありましたが、それでも 3 年間過ごすうちに、女子にも清陵魂(?)は自然と身についたようです。見知らぬ土地の広島で、真似ることのできる先輩女性もほとんどいない中で、私が何とかこれまでやってこられたのは、戸惑うことがあるたびに、心の中で「自反而縮雖千萬人吾往矣」とぶつぶつ唱えて自らを励ますことができたから。この校訓は、我ら働く女性にとって誠に有益なものであったと、今ではずいぶん感謝しています。

有賀 修二 (80 回)

昭和 58 年 東京農工大学大学院修了、(株)諏訪精工舎入社

平成 15 年 セイコーエプソン (株) 取締役

平成 17 年 三洋エプソンイメージングデバイス (株) 代表取締役社長

平成 18 年 エプソンイメージングデバイス (株) 代表取締役社長

平成 23 年 ソニー (株) モバイルディスプレイ事業部長兼 (株) ソニーモバイルディスプレイ代表取締役社長

平成 24 年 (株) ジャパンディスプレイ執行役員



セイコーエプソン入社以来一貫して液晶ディスプレイに関わった人生となってしまいました。ポケット液晶 TV、液晶プロジェクターの開発から、現在はスマートフォン、タブレット向けの液晶ディスプレイのビジネス全般に携わっております。この業界はグローバル競争が激しく、業界再編を経て 2012 年から日の丸液晶会社を設立するに至りました。紆余曲折を経て韓国、台湾に打ち勝つべく最後の聖戦に挑んでおります。

高校時代の思い出—— 自由奔放な高校生活でした。朝一は喫茶店でモーニングサービス、ホームルームに登校、2、3 限時は授業 (ほとんど爆睡)、昼は道産子ラーメンで、そのままパチンコ、15 時に戻ってクラブ活動 (サッカー部)。出席時間が足りず、期末に補修と進級者会議といったでたらめな生活でしたがとても楽しかった、そんな記憶が蘇ります。

中村 雅彦 (80 回)

昭和 59 年 自治医科大学卒業

昭和 61 年 波田総合病院 (現: 松本市立病院) 外科勤務

この間、国保奈川村診療所などでの医療過疎地の診療に従事

平成元年 自治医科大学附属病院での脳神経外科専門研修 (2 年間)

平成 8 年 波田総合病院脳神経外科科長

平成 22 年 同院副院長。専門は、脳神経外科学、医療情報学、医学博士



「診察は、眼で診て、心で察すること」……医療には論理的な判断で問題を解決する科学の眼と、患者さんの気持ちに寄り添う心が求められます。当たり前のことと思われるかもしれませんが、長年、医療界では知識や技術が偏重されてきました。その反省から平成 16 年に「広く総合医としての診療能力の修得」、「医師としての人格の涵養」を目的に、臨床研修制度が導入されました。

自身の清陵での 3 年間を振り返ってみると、「学力」「人間性」の両面において、あまりにも自由が多すぎたと感じています。自治という名前の自由は、放任、無責任と表裏一体です。学校教育はもっと指導力を発揮すべきでしょう。押しつけではなく、多くの選択肢や将来像を生徒に提示し、一人ひとりの可能性を伸ばす努力が必要だと思います。まさに「鉄は熱いうちに打て」です。

安川 昌昭 (81 回)

昭和 60 年 東京大学工学部卒業、(株)諏訪精工舎入社

平成 5 年 米国シガン大学にて MBA 取得
その後セイコーエプソン (株) で企業向け IT ソリューション事業立ち上げを推進

平成 12 年 エプソン香港に赴任、アジア地域でのソリューション事業を展開

現在 米国レックスマークインターナショナル
日本法人社長兼レックスマーク香港法人カントリーマネジャー



大学を卒業して会社の一員になって感じることは、「企業は変革よりも現状維持を優先する」ということでした。しかし市場、顧客は常に変革しています。すなわち変革を怠った会社は生存競争で生き残れない、ということです。清陵高校の校風は「上からの指示待ち」ではなく「自ら考えて行動すること」です。この校風を是非皆さんに体得していただきたいと思います。私の場合、IT 製造業に長年いますが、顧客の求める価値が「製品」というハードウェアから「何ができるか」というサービスに移ってきました。すなわち、ソリューション提供が重要になってきました。現在は如何にして既存の製品という HW 事業にソリューションという新たな付加価値を加えていくかの変革を求められています。

最後に、清陵高校のみなさん、是非世界に視野を広げてください。世界に目を向ければ、必ず自分の強みを活かせる場を見つけることができます。

寄稿

学校知から社会知へ ～社会が必要とする真の学力・人間力を求めて～

普通の暮らしを尊ぶ心

玉井 文子 (80 回・高等学校教員)

いきなりですが、問題です。

設問「古代ギリシャのポリスの一つである、スパルタを支配したのは何人ですか」

解答「5 人」。

定期考査の採点をしていて、出合った解答です。数字は違っても、この類の解答が 10 人近く。最初は理由がわかりませんでしたが、「なんにん」と読み誤ったのだと気づいて納得。そんな問題を出すわけがないのに。私が長年勤務した学校には、家族やお金や健康の問題を抱えながら、幸せをつかもうとしている生徒が沢山いました。彼らにこそ、生きるための武器である「学力」を身につけてほしいのですが、これがなかなか難しいのです。せめて「1 万人」なら正解かも、と珍答を笑ってしまいました。

故郷を離れ 40 年近く、教員生活も 30 年を超えました。目の前の生徒たちとの格闘の日々、自分の高校時代とはまったく違う世界です。清陵高校では、勉強は自分の責任と意志でするもの、知的好奇心をもち、自ら学ぶ生徒が尊敬されていたように思います。そのような学友たちや、生徒に「学問」を伝授しようという気概に燃えた個性豊かな先生方とともに過ごせたのは、文字どおり「有り難い」環境であったと、教員になって初めて気づきました。

この恵まれた 3 年の間に、周りの方々から多くの「知の種」を頂きました。読書は小説だけだった私に、社会科学の窓を開いて下さったのは、亡くなった高木先生でした。絵画、映画、音楽、歴史、様々な人類の遺産を、まるで魔法使いのように次々と繰り出す「知識人」。不肖の生徒だった私は、「モーツァルトのクラリネット五重奏曲」を 5 本のクラリネットの演奏だと思っていて、大笑いされたこともありました。頓珍漢で恥多き高校時代、でも辛抱強く導いてくれる先生方がいて、背伸びしながらも互いに刺激し合う生徒たちがいる、これが清陵高校の良さ伝統であると思います。

最初の授業で、決まって子供たちに問うことがあります。「文明の進歩って、何だと思う?」。ロボットとか、最近なら「スマホ」とか、たいていは科学技術の進歩があがります。でも、それは文明の一部にすぎないのだということを、是

非学んでほしい、そう言って授業を始めるのですが、これがなかなか通じにくい。歴史の授業で伝えたいことは、少数が多数を支配していた時代から、より多くの人々の意思が政治に反映される時代へと、社会の仕組みが進歩してきた道程。そこから、人類が歩んできた、さらには今後歩むべき「文明の進歩」の本当の姿を、是非考えてほしいのです。科学技術だけではなく、真面目に努力する人々が報われ、様々な意味での「弱者」が共同体の中で生きる場を得られることも、また「進歩」であるという視点をもった、そういう大人になってほしいと願って、教壇に立ってきました。

自分がより良く生きるだけでなく、自分たちが生きる社会をより良くするにはどうしたらいいのか、その答えを探す力を身につけることが、学ぶことの大切な意味の一つであると思います。勿論、学校は答えを教えるところではないし、教えるべき明確な答えもありません。学校は、子供たちが自分の力で答えを導く方法を、学ぶ場所であるはず。それはすぐに結果が出るものではないので、彼らを信じて、親や教師や社会が辛抱強く待たなければ、子供たちは安心して学ぶことができないでしょう。

答えを導く力の土台は、社会や人間に対する広い興味関心であると思います。知の力に裏打ちされた「想像力」で、相手の立場を思いやったり、先の展開を予測したりすることも、声高に繰り返し流される「情報」を鵜呑みにせず、自分の頭で検証することも必要でしょう。それこそが学力であり、良き人生のための力であると思います。そして何よりも私が子供たちに願うのは、人々が「美味しく食べてぐっすり眠れる」普通の暮らしを、尊ぶ人間であってほしいということです。

2014 年度より諏訪清陵高等学校が中高一貫校としてスタートします。その目指す生徒像は、「高い学力」「広い視野」「強い意志」だと伺いました。このような生徒を育てることができたらどんなに素晴らしいか、理想的なあるべき姿が示されていると、全体構想案を拝見して大変羨ましく思いました。多くの同窓生がそうであるように、今後後輩たちの多くも社会の第一線で活躍し、様々な場面でリーダーとなることでしょう。そのような世のお役に立つ人材を育成する役割が、益々清陵に求められるでしょう。是非、役に立つべき「世」とは何だろうと、時々立ち止まって

351 年目の真澄です。

●上質な真澄を最適な状態でお客様へ ●真澄でお客様の食卓を和やかに

●人と街に優しい酒蔵に ●日本酒を世界酒へ

失笑を恐れずに申し上げます。2013 年は創業 351 周年。昨年より一年分背筋を伸ばして四つの夢の実現に励みます。皆様の益々のご健勝をお祈りすると共に、真澄蔵元に倍旧のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

www.masumi.co.jp
www.facebook.com/sakemasumi

信州が生んだ天下の銘酒
真澄
MASUMI
七号酵母発祥の酒蔵
宮坂醸造株式会社
〒392-8686 長野県諏訪市元町 1-16
TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477

考えられる、そんなリーダーになっていただきたい。そして、社会的な地位や経済的な豊かさなどとは縁の薄い、大多数の普通の人々が穏やかに暮らせる社会を、築き守る力になっていただきたいと思います。

ところで、最初の問題です。「なにじん」と読み仮名をつけなかった出題者の配慮不足を反省しつつ、答えはドーリア人。私の視野を多少とも広げてくれたのは、こんな予想を超えた答えを書く、愛すべき生徒たちです。卒業した教え子から連絡があるのは、選挙のときとセールスばかり、「私にプロテインを買わせて、今更ムキムキおばさんになったらどうするのよ」と笑いながらも、内心では、平穏ではないのだろう彼の生活を心配するような、社会の第一線とは

「学力」を超えて

松崎 寛 (80 回・諏訪市職員)

高校のときは、いい大学に入ることばかりを考えていた。いい大学に入ることこそが、最も重要な能力の証明であり、よりよい大学に入るとは、その後の人生のすべてを決定するかのように考えていた。

しかし、高校を卒業し、大学を出、社会人になり、時間がたつにつれ、そうした考えが誤っていたことに、徐々に気づくようになる。いい大学を出た友人が、必ずしも社会において成功している（「社会における成功」ということ自体、大いに議論の余地があることなのだが…）とは限らないからである。

そうした思いは、職場において次々に入ってくる新入職員たちをみていると、ますます深くなる。学歴と仕事をする力が、結びつかない場合も多いのだ。

考えてみれば、それは当たり前のことであった。大学受験によって証明される力とは、人間の能力のうちのごく限定的な一面であり、実社会においては、非常に多面的な能力が要求される。社会はきわめて広汎にして複雑であり、ある特定の能力だけで対応できるほど、単純ではない。そもそも社会に生きていく上では、数値的に計測可能な能力以外のもの、人をひきつける力とか、勘とか性格、ひいては人間性そのものが、大きな鍵を握るのである。

そしてまた、基本的には能力と区別されるが、困難な目標を達成するには能力とともに必要不可欠な意志の力、あるいはより文学的にいえば志^{こころざし}でもというべきものが、仕事をする上では重要だと思われる。

では、社会において必要とされる学力とは、何なのか。その問いに、一言で答えることはできない。それは職種によるのであり、組織の中で与えられた位置にもよるのであって、それぞれによって必要とされる能力は千差万別であろう。

そもそも、「社会において必要とされる学力」という問題のたて方そのものに、語義矛盾があるのではないかと。「学力」とは、学校内的な概念であって、通常社会において問題とされるのは、「能力」であり「実践力」であって、最近よく使われる言葉で言えば、「問題解決力」だと思われる。

社会に出ても、常に勉強しなければならない。常に研鑽に努め、人格と能力の根幹を磨いていなければ、高いレベルの仕事に堪えることはできない。その意味では、常に学

随分とかけ離れた世界です。でも、もし彼らに出会わなかったら、私は「知識人」と「教養マニア」の区別もつかずに、知識の伝達をするだけの教師であったかもしれません。

良き伝統を引き継ぎ、さらに中高一貫の新たな目標を掲げて、母校が発展していくのは、誇らしく、嬉しいことです。どうぞ、その目指すべき「高い学力」が「真実を見極める力」であり、「広い視野」が「見過ごされがちな社会的弱者を見落とさない視野」であり、「強い意志」が「思いやる心」に支えられたものでありますように。栄光を求めて先へと進むだけでなく、足元にある真実に気づきそれを発掘できる、有為の人材を育む母校であってほしいと、切に願っております。

ばなければならないのであり、そこにおいて学力というものの重要性は、失われることはない。

しかし、それはいわば仕事をする上での準備であって、仕事そのものは、学力とは別の力が必要となると思われる。

なぜなら、学力とは、既に確立された知を受容し修得するという、ある意味で受動的な力なのに対し、社会において要求される能力は、状況や対象に切り込んで、現実を調整して新たな関係を築いたり、新商品や新制度などの新たな価値を創造したり、何らかの問題を解決することによって新たな状況をつくりだす、能動的な力なのだから。

その意味では、当然のことながら、高校教育までで求められる学力よりも、大学教育において涵養される能力の方が、実社会で必要とされる能力に近いということがいえるだろう。

高校までに培われる学力とは、そうした社会的能力を高める、いわば必要条件といえるだろう。社会において必要とされる実践力は、人類の蓄積された経験と知を基盤としてこそ、より有効で実り豊かなものになるのであろうから。そしてそうした能力は、学力という基礎能力が、高校までに十分に訓練されることを必要とするであろうから。

わたし自身の経験からいえば、社会人として仕事をする上で最も重要だったのは、考える力だったように思う。未知のもの、新たな状況に対峙し、それを理解し、対処する構想力。そこにおいて重要なのは、ものごとの本質と骨格を見失わない理念的な思考力であり、そこから具体的な枝葉を導き出す実践的な思考力であり、それを現実に応用した場合に生ずるであろう様々な事象に対する、周到な想像力である。

そして、事態が困難であればあるほど、強いストレスにさらされながらもそれに負けない集中力と、ストレスに耐える力。

そしてたぶん、自分の力と仕事を信じ、最後までやりぬく強い意志の力…。

人や職業によって必要と感じる能力は違うだろうし、他にも様々な能力が要求されるとは思いますが、わたしが 30 年に及ぶ公務員生活の中で感じたことは、そのようなことである。

社会人としての人生において、常に自分の能力を最大限発揮しなければならないような危機的状況に置かれるわけではない。しかし長い職業生活において、一度や二度は、自分が試されるようなときがくるものだ。不断に勉強し、

心身ともに自分を鍛えておくことは、そうした危急のときに、備えることでもあるだろう。

清陵が中高一貫校に移行するにあたり、「高い学力」、「広い視野」、「強い意志」を兼ね備えた生徒像を目標に掲げるという。「学力」と「意志」については、多少なりとも言

「こころ」(知・情・意)を深く養う

堀内 伸二 (80 回)

公益財団法人中村元東方研究所理事

日本印度学仏教学会理事

「諏訪清陵高校は、信州でも有数の進学校ですよね」

これは、日本と縁が深いインドの在日大使館主催のパーティでお会いした、ある企業のトップの方が口にした一言です。これまでに、時と所を変え、幾度かこのような発言に出くわしました。確かにそうなのでしょうし、清陵が中高一貫校となることによって今後一層その認識は深まることでしょう。

しかし、諏訪清陵高校のモットーが「自反而縮雖千萬人吾往矣」であることは、あまり知られていません。数多くの中の一高校の教育精神や校風までもが知られていることの方がむしろ稀なことでしょうから、それは当然のことかもしれません。

ところで、人間がもっている精神能力という点から考えてみたとき、進学校である諏訪清陵高校が、先に引用したモットー、すなわち『孟子』に述べる「大勇」という強い意志力を尊重していることを非常に意義深く感じます。

江戸と明治の二つの時代を生きた夏目漱石は、『草枕』を「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」というフレーズで書き始めています。さすがに時のエリート中のエリート、ここに漱石は、人間の精神能力を見事に描き出しています。「こころ」と一口に言っても、少なくともそれには知力・情力・意志力の三つの面があること、そしてそれらにはそれぞれの危うさがある、と。

西洋の社会において、ある時期から「価値」について、真・善・美の三つを数えるようになったことでも知られるとおり、確かに「こころ」には、この三方面があり（知性と真理が、情緒と美しきものが、そして意思と善なるものが対応）、知育偏重に傾いている今日の状況はともあれ、教育の真の目的も、人間のもつこの三つの精神能力を教え養うことにあるべきことは言うまでもありません。

この三つの中で、確かに知力は大切です。難関入試を突破するにしても、効率の良い暗記力や、高速かつ正確な処理能力が必要となるわけですから。しかし、社会に出てつくづく思うのですが、たとえば中国との交渉といった国家的難問において見てとれるように、人と人との交渉ごとは、政治的鋭敏さに加え、人間的魅力（知・情・意の総合力）が非常に大切で、「角が立つ」という知性（より限定していえば、左脳の側頭葉や海馬など記憶を司る領域やら、論理的思考に係わる左脳前頭葉といった）の優秀性だけでは立ち行きません。

また知力そのものにしても、知力は単に知力だけ磨けば卓越したものになるかというと、決してそんなことはあり

及した。「広い視野」については、いうまでもないだろう。それらが極めて重要であることは、論を俟たない。

しかし、何よりも重要なのは、この生徒像が形骸化することなく、清水ヶ丘の教育に生きた目標として、息づいていくことである。

ません。身近なところで、一例をあげてみましょう。

諏訪市中洲生まれの岩波茂雄を創業者にもつ岩波書店が建てた信州風樹文庫には、日本が生んだ世界に誇るべき 2 人の学者（インド思想、仏教学の世界的権威）の岩波書店発刊本のすべてが所蔵されています。その 2 人とは、中村元博士と、その師・宇井伯寿博士です。共に文化勲章受賞者であり、中村博士が逝去した折には、天皇陛下から花がわざわざ届けられ、インド大統領は、その死を悼み空輪で弔電を寄せてこられたほどの大学者です。

人文科学の分野では、100 年に 1 人出るかどうかと称えられる卓越した知の所有者・中村が、諸言語で生涯に著した著作は、1500 本を超えます。これほど多くの知財を生み出し、それが混迷を極めた今日、真剣なまなざしをもって世界の人々から注目されているのはなぜでしょう。

中村博士は、生前「私は研究を勉め強いてきました」と優しい笑みを浮かべながらよく口にしていました。それは、博士にとって「わが道を行くのに大切な学殖を身につけるために、ひたすら不撓の精神を続けていくことであり、むしろ『修行』という言葉に近い意味」をもっていたのです。

それほどまでに勉強を「勉め強いる」ことができたのも、幼少期に 1 年間の休学を余儀なくされた病弱な自分を支えてくれた人々への強い感謝の情があり、学問をする根底に、「学問は、究極的には人の役に立つものでなくてはならない」という強い願い・意志があったからです。そして膨大な研究成果を残した中村博士が、生涯、特に晩年に非常に大切にしていた「こころ」は、「慈しみのこころ」（インド語のマイトラム・チッタムに基づく、偏りのない普遍的な愛）でした。

諏訪には、岩波茂雄の寵愛を受けた西田幾多郎以下、京都学派の指導を受けた信州哲学会が今でも存続しています。博士はその招きで何度かおいでになられ、諏訪とは実に縁が深いのですが、その中村博士をして、「純粋に真理を求めることに全生活、全生涯を賭けた方だった」と言わしめた師匠が、博士が初めて岩波茂雄に会ったとき、「あんたは、お師匠がいいからね」と言わしめた宇井伯寿博士です。

ところでその宇井博士ですら、師匠から「宇井君、君は火鉢に当たって書を読むのかね」と叱咤され、「一心に勉強しているときに、寒さや暑さを感じるだけのゆとりがあるのか、といかにも信じられぬという顔をされた」というのですから、わが国の学問の先人たちは、勉め強いることにおいて、現代の人々の想像をはるかに超える厳しさを備えていたわけです。

東洋思想では、理想的人間像に、知力だけでなく、情緒や意志力を含めた総合的な人格を求める傾向が強くなります。その事実をこれらの偉大なる学者に見ることができます。日本初のノーベル物理学賞受者である湯川秀樹博士が、祖父小川駒橋から、子供のころより漢文の素読を授けられ、秀才 4 人兄弟のなかでも湯川博士だけは、中国思想

の中でも最も深い哲学が展開されている『莊子』を好んでいたことなども思い起こされます。

そのものは東西を超えているものですが、理性のもつ危うさもよく知ったうえで、人間の「こころ」をより深く窮め、さらに身を投じて、より高次なる知・情・意を養い育てることに専心してきた東洋思想（西洋とは異なった論理をもっているという点から極めて東洋的な、インドや中国、そして日本という東洋の諸地域に根づいた思想）には、確

社会が必要とする学力・人間力

藤森 一俊 (80 回・長野県教育委員会主幹指導主事)

1. あの瞬間

得点 0 対 0。9 回裏ツーアウトランナー 2 塁。一打サヨナラの場面。相手打者がレフト前へクリーンヒット。私の前をサヨナラのランナーが走り抜けていった。今から 30 数年前の岡谷工業との夏の大会 1 回戦。鮮明に覚えている。

高校時代の勉強が、今にどう役立っているのか、と問われると、たぶん役立っていると思うが、明確に答えることができない。なぜなら、高校で何を勉強するのかという目的意識がなかったからである。

かわりに思い出すのは、冒頭の野球部最後の試合のことだった。勉強以外の「野球部」に私の目的意識はあった。だから私にとって高校時代に学んだことは野球部を通してのものだった。

2. 目的意識の設定

野球部に対する強い目的意識をもつようになったきっかけとなる出来事があった。私が 1 年の時。夏の大会前日から 6 月ごろだったと思う。当時野球部は存在せず、同好会であった。しかし「部」に昇格できないと夏の大会に出場することができない。そう決まったとき、同好会を立ち上げた 3 年生の K さんが男泣きした。

その涙に、清陵高校野球部復活に対する K さんの情熱を感じた。同時に、自分は中途半端な気持ちで同好会に入っただが、それではだめなのだ、と教えてくれた涙でもあった。

3. 無からの出発だが…

監督もいない、練習場所もない、道具もない。何もなしのところからの出発であった。しかし清陵の関係者でもない（これも K さんという）方が監督になってくださったのである。

世の中には、一生懸命やっていると、助けてくれる人がいるのだと思った。私は 2 人の K さんがいなければ野球部の復活はなかったと思っている。

紆余曲折を経て部に昇格することができた。このときの経緯を私は知らない。だから知らないうちに同好会から部になっていた、という記憶である。当時の校長先生をはじめ、きっと多くの方が復活に向けて動いてくださったのだろうと想像する。

4. 練習は嘘をつかない

夏の炎天下、ふらふらになりながらノックを受けた。キャッチャーの私はショートバウンドがうまく捕れなかったのである。そこまでしてもうまく捕れなかった。しかし練習を続けて 3 カ月くらいたつと、何とか捕れるようになっていた。

かに、知・情・意が「角が立ち、流され、窮屈な」ものであることよく知り、それを純化して、「住みにくい世の中を」生き抜く知恵を我々に与えてくれる何かがあります。

未来ある若い中学生、高校生が、つとにそれらに触れ、混迷した世情において、卓越した知を具え、校風に示された意思を貫き、「慈しみのこころ」を養って、真に社会に貢献していただけることを切望するものです。

練習すれば、何らかの形で現れる。そして 3 カ月すればはっきりわかるようになる。練習は嘘をつかない。このことを実感として思う。この経験は教育の仕事をしている今、よく児童・生徒に話している。

5. 三智

人の世に三智がある。学んで得る智、人と交わって得る智、みずからの体験によって得る智がそれである（島崎藤村）

島崎藤村のことばを借りるならば、野球部で学んだことは、人と交わり、みずからの体験によって得たものである。

そして学んだことは、冒頭に述べたように、強い目的意識に支えられている。人と交わること、体験を通すことは目的ではなく、あくまでも方法つまりどう学ぶかという、学び方である。

このことをこのようにやりたい、という目的意識が根幹にあり、人と交わり、体験を通す学び方が身についていることが大切なんだろうと思う。目的意識をもっとわかりやすい言葉で言えば、「物事をやろうとする意欲」である。

6. 意欲

こうしてみたい、こうやりたいという意欲がすべての基である。

勉強はまったくできなかった私は、野球に対する目的意識つまり、野球に対する意欲だけはあった。だから続けることができたと思っている。それが今の私を支えている部分が大きい。

知識や技能は反復練習によって、ある程度高めることはできる。しかし意欲は心の働きであるから、高めることが難しい。しかし、いったん高まると、それは継続するものである。

これからの社会が必要とする学力との問いに「物事をやろうとする意欲」と私は答える。

清陵高校の佐倉俊教頭先生は、雑誌「信濃教育（第 1515 号）」で次のように述べておられる。「明治 28 年以来の伝統に培われた＜高い学力＞＜広い視野＞＜強い意志＞を基礎に、21 世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する」

この強い意志は、意欲と密接に関わっている。ぜひ具体化させていただきたいと思う。

7. リーダーシップを育てる

最後に表題とずれるが、佐倉教頭先生は、次のようにも述べておられる。「豊かな感性やリーダーにふさわしい人間力を身につけていきたい」。

東日本大震災で浮かび上がった教育の課題は、リーダーシップを育てる教育が弱かった、ということである。清陵の中高一貫教育に期待するのは、リーダーシップの育成である。それは社会に貢献できる人材の重要な要素だと思っている。



山田六一同窓会顧問を偲んで

元同窓会長 宮坂久臣 (49 回)

山田六一さんのご逝去は平成 25 年 1 月 16 日のことでした。

たまたま私は上京しており、諏訪湖カントリークラブの平林平治さんから知らされました。何分にも 96 歳のご高齢であり、最近体調を崩されているとお話をうかがっていましたので、心配していました。私どもにとってこの訃報はまことに痛恨に堪えません。

翌日、湖岸通りのご自宅へ弔問致しますと、全く普段通りの温顔で、今にも「ヤァヤァ」と話しかけられそうな穏やかなお顔でした。

山田六一先輩は、大正・昭和、そして平成と 3 代を生き抜かれ、1946 年（昭和 21 年）に長兄山田正彦さんと三協精機製作所を創業され、戦後の経済復興に呼応して、日本経済の成長とともに、同社を大きく発展させられました。

しかし、その道のりは必ずしも順調ではなく、その間、幾多の風雪に耐え、やがて世界トップのオルゴールメーカーとして繁栄の道を歩んでこられました。その頃、長兄正彦さんが諏訪精密機械工業組合を設立、理事長にご就任され、諏訪地方の精密工業の経営者に企業経営や金融対策等細部にご指導されておられました。私は当時諏訪信用金庫に勤めており、企業の経営者の方々とお取引引きを頂いておりましたので、正彦さんを介して親しくして頂き、六一さんとのご縁もその頃から始まりました。

また一方、母校旧制諏訪中学校（現諏訪清陵高校）同窓会でお逢いする機会も多く、各般にわたり今日までご指導頂いてまいりました。

1976 年（昭和 51 年）、私どもの諏訪信用金庫の非常勤理事にご就任され、諏訪地方の中小企業の発展に金融を通じて力強いご指導・ご支援を頂きました。

また、1980 年（昭和 55 年）から 10 年間、母校の同窓会長にご就任され、その間、校舎改築の支援、清陵 80 年史の刊行、清陵会館（同窓会館）の建設、艇庫の新築移転等の事業を完遂されました。

また 80 周年の記念事業の一環として広く同窓生と一般の方々からご支援を頂いた寄付金の一部をファンド（基金）

として一般財団諏訪清陵会を設立、発起人理事として生徒の育英事業を推進され、父兄や生徒から大変感謝されました。

1996 年（平成 8 年）諏訪ハイツ観光株式会社の代表取締役社長にご就任され、同年 8 月、同社の運営する諏訪湖カントリークラブの理事長にご就任され、お亡くなりになるまで名誉理事長としてクラブの発展に多大な貢献をなされました。

前記山田六一さんとの長い交流の中での思い出話を記して追悼したいと思います。昭和 55 年頃、山桜が咲いた頃と記憶していますが、蓼科の旅館での思い出であります。

当日、地域の経済団体の会合があり、会議や懇親会に旧制諏訪中学の同窓生も大勢出席されておられ、数人の方々に二次会が始まりました。山田さんも参加され、夜の更けるのも忘れて盛大な二次会になりました。まさに談論風発、牛飲馬食、斗酒なお辞せずの皆さんでした。話題は中学時代の地方会の思い出や、矯風会の話題でした。若かった私は、専ら爛番をしていましたが、中学時代一緒に通学した長地硯友会の人たちもいましたので、終始笑顔で白いワイシャツを腕まくりして、時には浪花節をうなり、「なるほど、なるほど」を連発して、最後まで席を立つことはありませんでした。

今考えてみると、当時三協精機製作所の社長として経営のトップにあり、連日大変ご苦勞の日々をお過ごしで、当夜は、昔の気のおけない人たちとの交流であり、安らぎの一時であったのであったのでしょうか。

晩年は、長い激務から解放され、悠々自適の境遇に入られ、奥様とご家族との団欒の日々を楽しくお過ごしのご様子で何よりでした。平素から己を外に飾ることなく、情に厚く、多くの人々に慕われ、尊敬されていました。また企業経営者として常にバランス感覚と、物事の処理に当たり調整能力に優れておられ、私は日頃感銘を受けておりました。

こうして今、山田六一先輩を偲び起こすことは、公私にわたってご指導頂き、お世話になったことばかりであります。生前賜りましたご厚情に深甚なる謝意を表し、改めて心よりご冥福をお祈り致します。

最先端技術にはロマンがある

理想を追求した **ノイズカットトランス**

ノイズ障害防止の切り札で、近未来に先駆けるトランス型ノイズ防止素子です。



高度情報化社会のアクセス障=不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす
株式会社 **電研精機研究所**
創業者(工博) 矢ヶ崎昭彦(47 回)

本 社：〒203-0042 東京都東久留米市八幡町1-4-21 TEL 042-473-3745(代) FAX 042-474-0613
大阪営業所：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-7-5プロスベリタ四ツ橋 TEL 06-6538-1118(代) FAX 06-6538-2777
ノイズトラブル相談室 ノイズトラブルに関するご相談・調査・技術援助等を承ります。 URL <http://www.denkenseiki.co.jp/>



母校の新たな発展を

同窓会長 松下 勲 (59 回)

会員各位におかれましては、益々ご清栄にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平素は、同窓会の活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ご存知のように、今わが国は、人類史上未だかつて経験したことのない急速な超少子高齢社会を迎えようとしています。高齢者の急増による社会保障費の増大、そして深刻な少子化は、消費行動の不活発化や生産活動年齢層の急減による国力の衰退化など、将来にも暗い影を落しています。

GDP（国内総生産）に占める教育費の割合が先進諸国の中では依然として最下位に近いこと、膨大な借金や汚染された自然環境を次世代に残すこと、そして結果的に格差社会の助長をも懸念される経済政策など、目先のことに右顧左眈しているわが国の現状を見るにつけ、今こそ長期的な視点に立った在るべき国家像について衆知を集めて論議し、啓発してゆくことが喫緊の課題のように思われます。

さて、母校にとっても、戦後の教育制度改革以来の改革となる併設型中高一貫校が、平成 26 年 4 月、中南信地区のモデルケースとして開校いたします。

同窓会としてのこれまでの数年間の取り組みが漸く実り、狭隘な土地に配慮した校舎や再生可能なエネルギーの活用、省エネなど、時代の要請にも応えたものとなりました。入学してくる附属中学生がより良い学習環境の中で伸び伸びと学び、わが国の将来を背負って立つ有為な人材に育ってほしいと心から期待しています。

翌、平成 27 年度には、母校創立 120 周年を迎え、その記念事業の一環として同窓会員名簿を発行いたします。また、「記念事業実行委員会」を組織し、現時点では同窓生による講演会やシンポジウムなども一つの案として考えていますが、ご意見などお寄せいただければ、と存じます。

次に、平成 9 年度に発足したクラブ活動後援会ですが、第 4 期目に入りました。教科活動と特別活動は車の両輪です。1 期 5 年で 1 万円ですが、ご支援の程お願い申し上げます。

なお、これまで 12 年間の長きに亘りご尽力いただいた武居浩明事務局長さんが退任され、新たに林隆憲先生（68 回）をお願いいたしました。お気軽にお声をお寄せください。

定期総会において、引き続き副会長、監事の皆様とともにその任をお受けすることになりました。もとより微力ですが、各位のご支援の下、その任を果たして参りたいと存じます。引き続き、宜しくお願い申し上げますとともに、皆々様の益々のご健勝とご多幸を心よりご祈念いたしております。

追記 去る 1 月 16 日、本会顧問の山田六一様をご逝去されました。昭和 55 年から 10 年間の長きに亘り、本同窓会会長として、本会 80 年史の刊行や母校校舎全面改築、財団法人諏訪清陵会の設立など、多大なるご尽力を賜りました。ここに、ご生前のご功績とご人徳を偲び、心からの感謝を申し上げ、謹んで哀悼の意を捧げます。



エピソード

校長 佐藤 尚登

同窓生の皆様におかれましてはご清祥のことと拝察し、お慶び申し上げます。また日頃から母校のために物心両面にわたってご支援を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、平成 23 年 1 月の県教育委員会定例会で本校への附属中学校設置が決定されて 2 年が経ちました。この間、同窓会ははじめ多くの方々のご支援を仰ぎながら準備を進めてまいりましたが、校舎につきましては 4 月 15 日現在、順調に工事が進められています。狭隘な敷地ゆえ多くの課題がありましたが、皆様のお力添えで学校の希望の多くが反映された校舎になります。

また、教育内容も様々な提言をいただきながら検討してまいりました。その概要は県教育委員会のウェブサイトでご覧いただけますが、目指すのは高い学力、広い視野、強い意志をもった生徒の育成です。内外に多くの課題を抱えて日本は立ち竦んでいるかのようにですが、その状況を打開してくれる人材がここ清陵から、今までと同じようにこれからも陸続と果立っていつてくれることと思います。

ところで、私は昨年度伺った支部総会で、時間が許す限り一つのエピソードを紹介してまいりました。そこにはこれからの清陵を考えるに際して忘れてはならないものがあると思いますので、くどくなりますが簡単にご紹介いたします。

昨年 10 月初旬、1 通の封書が届きました。差出人の東京在住 M 氏に心当たりはありませんでしたが、鳩居堂の封筒とペンによる流麗な宛名が印象的でした。内容は以下のようなものでした。

「自分は K 大医学部を卒業して昭和 41 年に整形外科教室に入局したが、同期入局者 11 名の中に清陵出身の S 君がいた。S 君は人望厚く、手術手技も抜群だった。後に愛知の大学で教授となったが、病気で早逝した。10 月 8 日の 13 回忌に同期生が S 君の出身地岡谷に墓参する。その際、S 君の母校を訪ね、彼の通学当時を偲びたい。ついてはバスの駐車をお願いしたい」

驚きました。告別式ならともかく 13 回忌に何人もの仲間が遠く岡谷まで墓参に来られるというのです。S さんの生前の交友の濃密さを思いました。さらに M 氏と仲間は、S さんが青春の一時期を過ごした清陵高校とはどんなところか見てみたいとおっしゃるのです。法要で集ったとしても、故人の母校を見たいとまでは普通は考えないのではないのでしょうか。生前 S さんが清陵出身であることを誇りにし、しばしば高校時代のことを口にしていたのでしょうか。そのことが仲間たちに強い印象を与えていたに違いありません。付言すると S さんは 62 回生で、ご存命なら昨年度 72 歳です。

さっそく、次のように返信しました。

「お手紙拝読しました。当日は休業日で駐車は可能です。校舎は建て替えられ S さんが在学時の面影はありませんが、ゆっくりご覧ください。奥に進むとグラウンドに碑があります。S さんが心に刻み、在学中も、そして卒業後も時折口にしたであろう言葉が彫ってあります」

数日後、再び M 氏から手紙が届きました。「……十月八日正午頃貴校に到着いたしました。ご許可下さいましたので、学校正面玄関にマイクロバスを着けさせていただきました。……」

横手に回り、丁度女子学生が二人いましたので、校庭の案内を尋ねました。二人に、我々が貴校を訪問した理由を説明したところ、半世紀前の卒業生ということのでびっくりしていました。二人にとっては五十年という歳月は想像もつかないことと思います。

ネットを潜って校庭に入りました。時間でしたので一人の生徒も見当たりませんでした。左手の石碑はすぐに分かりました。

『自反而縮雖千萬人吾往矣』とあり、代々高潔な人間の育成に御尽力なさっている学校教育の精神が、S 君の人間形成に大きく役立ったのだと分かりました。我々の中で書の分かる者が碑文の文字に感嘆していました。……

我々も皆七十歳を越えています。……今回の旅はいつまでも皆の心の中に深く留まることと思います。

末筆ながら、貴校の益々の御発展を祈念いたします。ありがとうございます」

S さんのような先輩がいたこと、その先輩と交友を結ん



自反而縮雖千萬人吾往矣碑

だ方々の姿、それをぜひ今の生徒諸君に伝えたいと思います、M 氏に再度ハガキを書いてこの経緯を文章にすることの許しを求め快諾を得ました。M 氏は快諾されるとともに奥様にもご連絡していただきましたので、1 月のある日奥様から学校に電話をいただきました。名古屋在住の奥様は、当日グラウンドの碑を見たこと、巨石の上で撮った高校時代の S さんの写真が残っていること、60 年近く前の担任の先生のあだ名が「mamashi」であったことにまで触れながら、清陵がいかに S さんにとって大きな存在だったかを話されました。

卒業した学校を母校と呼ぶにふさわしいものにするのは、一人ひとりの在学中の学び方、生き方だと思います。おそらく S さんは、清陵での時間を全力で生きたのでしょう。そんなことも生徒諸君に伝わればと思い、以上の経緯を学友会誌に寄せたところです。

時代とともに学校の姿は変わりますが、変えずに残すべきものもあります。清陵で学んだことが、その後の人生の支えとなるような学校で在り続けたいと願っています。

公益財団法人諏訪圏学校理科教育振興基金につて

常務理事 石城 祐吉 (62 回)

事業等の報告

当基金（略称理振）は昭和 38 年 11 月「財団法人長野県諏訪清陵高等学校理科教育振興基金」として発足し、以降平成 20 年の法による公益法人見直しに基づき、平成 23 年 4 月 1 日「公益財団法人諏訪圏学校理科教育振興基金」として認可を受け、現在に至っております。

当初は諏訪清陵高等学校の理科系クラブへの研究助成、資材助成を行っていましたが、現在は諏訪地域の高等学校（SSH 指定校＝清陵高校）および諏訪地域等の中学校の理科教育等の振興に寄与すべく、助成金の給付を行っております。助成事業の成果は毎年「理科研究収録」としてまとめ、その足跡を残してきました。

こうした活動を重ね、当基金も本年度（平成 25 年度）創立 50 周年を

迎えます。50 周年という節目を迎え、今後の更なる発展に向け組織の若返りの時を迎えたと考え、理事長が山崎壮一氏（51 回生）から矢崎和広氏（68 回生）に引き継がれました。

昨年度の公益事業としては高等学校に対し約 70 万円、中学校に対し約 60 万円の助成金を拠出致しました。今後も同レベルの公益事業を継続したいと考えております。

財政基盤強化のお願い

当基金はこれまで幾多の先達から賜った寄付金を「基本財産」とし、その運用益で運営してまいりました。発足当初は時代背景にも恵まれ、高金利、高利回りにより得た運用益で充分な助成事業が可能でしたが、昨今は十分な運用益を得ることが難しくなっており、

の運用益により公益事業を継続して行くためには、運用財源の「基本財産」を増強することで対応するしか方法がないのが実情です。

今後も多くの同窓生の皆さんに呼びかけ、「理振」発展のためのご協力をお願いしたいと存じます。公益財団法人の認可を受けたことにより税法上、個人の場合は所得控除、法人の場合は損金算入等の特典があり、寄附をしていただき易くなっております。

諏訪地域等での高等学校、中学校の理科教育振興のために、ぜひご協力をお願いする次第です。詳細につきましては以下の連絡先までお問い合わせ下さい。

【連絡先】
事務局長 小松千章（62 回生）
電話 0266-52-3015
携帯 090-1868-2998

学校だより

平成 24 年 4 月 4 日、新入生 242 名（男子 149 名、女子 93 名）を迎え、全校生徒 728 名（男子 435 名、女子 293 名）、教職員 66 名で、平成 24 年度がスタートしました。この 1 年、生徒たちは勉強に、クラブ活動に精一杯取り組み、それぞれの成長を果たしました。そんな生徒たちの活躍を中心に、この 1 年間の学校の様子をお届けします。

運動系クラブ

野球部は、春季北信越大会長野県大会においてベスト 8、夏の全国高等学校野球選手権長野大会においてベスト 16、秋季北信越大会長野県大会においてベスト 8 となり、21 世紀枠に長野県代表として推薦されました。残念ながら北信越地区からの 21 世紀枠出場はありませんでした。

春の高校総体では、陸上、剣道、男子バスケットボール、女子バスケットボール、ソフトテニス、男子硬式テニス、サッカー、ハンドボール、水泳の各部が県大会に進出しました。

大会では陸上部の倉橋由宇君（2 年）が棒高跳びで 3 位となり、北信越大会に出場しました。水泳部の松澤光希君（2 年）が 50M 自由形で 5 位、100M 自由形で 8 位となり、北信越大会に出場しました。

端艇部は、シングルスカルにおいて野村真太郎君（3 年）が 1 位、小松拓磨君（2 年）、高橋沙恵さん（1 年）が 2 位、山本秋汰君（2 年）、小口佳代さん（2 年）が 3 位で、ダブルスカルにおいて、今井綾乃さん（3 年）、岡部萌子さん（2 年）が 1 位、守野陣君（3 年）、吉原創太郎君（3 年）が 2 位で、クオドルブルにおいて大内泰紀君（3 年）、原昂秀君（3 年）、花岡諒一郎君（3 年）、両角仁矢君（2 年）、宮下優矢君（2 年）が 1 位、関杏利紗さん（3 年）、小林優帆さん（2 年）、加藤ゆき乃さん（3 年）、鈴木瑞葉さん（3 年）、入江彩加さん（2 年）が 2 位となり、北信越大会に出場しました。北信越大会においては、男子シングルスカル C 決勝で小松が 1 位、野村が 2 位、中野が 3 位、山本が 4 位、柄沢が 5 位、波多野が 6 位、女子シングルスカル A 決勝で高橋が 6 位、B 決勝で小口が 2 位、C 決勝で唐澤が 1 位、土屋が 3 位、男子ダブルスカル B 決勝で守野、吉原が 3 位、女子ダブルスカル A 決勝で今井、岡部が 3 位、男子クオドルブル（大内、原、花岡、両角、宮下）が A 決勝 6 位、女子クオドルブル（関、小林、加藤、鈴木、入江）が B 決勝 1 位となり、その結果、女子総合 3 位に輝きました。インターハイにおいては、男子シングルスカル野村真太郎君（3 年）が準々決勝 5 位、女子ダブルスカル今井綾乃さん（3 年）、岡部萌子さん（2 年）が準々決勝 3 位、男子クオドルブル大内泰紀君（2 年）、両角仁矢君（2 年）、花岡諒一郎君（3 年）、宮下優矢君（2 年）、原昂秀君（3 年）が準々決勝 3 位でした。

端艇部は国民体育大会においても、女子クオドルブルで関杏利紗さん（3 年）、今井綾乃さん（3 年）が参加し総合 8 位となりました。

秋の新人大会では、陸上、剣道、男子バスケットボール、ソフトテニス、男子硬式テニス、ハンドボール、水泳、卓球、

バドミントンが県大会に進出しました。県大会では、陸上の倉橋由宇君（2 年）が棒高跳びで 3 位、窪田章吾君（1 年）が走り幅跳びで 2 位となり、北信越大会に出場し、倉橋君が 8 位、窪田君が 3 位に入賞しました。

また選抜大会では、ソフトテニス、剣道が県大会に進出しました。

端艇部は、男子ダブルスカルでは小松拓磨君（2 年）、山本秋汰君（2 年）、男子クオドルブルでは大内泰紀君（2 年）、宮下優矢君（2 年）、両角仁矢君（2 年）、小林優斗君（1 年）、中野洋君（2 年）、女子シングルスカルでは小池優さん（2 年）、藤澤春菜さん（2 年）、女子ダブルスカルでは高橋沙恵さん（1 年）、岡部萌子さん（2 年）、女子クオドルブルでは、土屋恵さん（2 年）、入江彩加さん（2 年）、鴨居綾乃さん（2 年）、小林優帆さん（2 年）、小口佳代さん（2 年）が中部高等学校選抜競漕大会に出場しました。中部高等学校選抜競漕大会では、女子シングルスカル小池優さん（2 年）が決勝 5 位となり、3 月に行われた全国選抜大会に出場しました。また、全日本ジュニアボート選手権では花岡諒一郎君（3 年）、両角仁矢君（2 年）がシングルスカルで出場しました。

文化系クラブ

美術部は、全国レベルのコンクールの高校生・中学生クリエーターコンテスト（学校法人電波学園主催）で、奈良井志帆さん（2 年）が佳作賞を受賞しました。

古典ギター部は、7 月に第 42 回全国高校ギター・マンドリンフェスティバル（大阪府）に出場し、4 年連続優秀賞となりました。また、11 月の第 42 回長野県高等学校ギター・マンドリンフェスティバルで優秀賞となり、来年の全国大会出場も決まりました。

書道部は、7 年ぶりに出場した第 36 回全国高等学校総合文化祭富山大会（魚津市）において、部長の小林美早紀さん（3 年）の亡き高木昭彦先生への思いを創作にした作品が優秀賞を受賞、これは運動部でいえば北信越 1 位に匹敵する快挙です。また、信州書道展（長野日報社主催）において 5 年連続「最優秀校」受賞、個人賞でも味澤香苗さん（1 年）の全日本書道連盟賞をはじめ上位賞に多数名を連ね、新聞に大きく掲載されました。

化学部は、諏訪市からの求めに応じ、工学院大学サイエンスフェスタ in 諏訪に参加、「元・銅メダルが銀や金のメダルに?!」と題して、亜鉛と黄銅メッキの演示を行いました。

音楽部は、第 11 回長野県ヴォーカル・アンサンブルフェスティバルにおいて、高等部門では最高賞のサファイヤ賞を受賞し、毎年福島市で開催される第 6 回声楽アンサンブルコンテスト全国大会へ長野県代表校として選出され、同大会では優良賞を受賞しました。

吹奏楽部は、初めて揃いのユニフォーム（黒ブレザー）をつくり、第 55 回中部日本吹奏楽コンクール長野県大会からユニフォームデビューを果たしました。結果は銀賞でしたが、上をねらって意気盛んです。その他、県大会以上の活躍としては、第 38 回全日本吹奏楽アンサンブルコンクール県大会へ金管 6 重奏が勝ち進み、銀賞を受賞しまし

た。また、第 11 回管楽器個人・重奏コンテスト長野県大会では、重奏の部で金管 6 重奏とフルート 3 重奏がともに銀賞、個人の部で三橋咲歩（2 年・マリンバ独奏）が金賞、増澤智哉（2 年・ユーフォニアム独奏）および内藤彩音（2 年・ホルン独奏）が銀賞を受賞しました。

かるた部は、第 34 回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会（滋賀県）に出場し、団体戦ベスト 8 に入りました。また、第 36 回全国高等学校総合文化祭（黒部市）では、長野県選抜チームに清陵より 3 名が選抜され、団体戦でベスト 16 に入りました。

イングリッシュ部は本校から出場した 3 チームのうち、清陵 A チームが第 20 回長野県高校生英語ディベート大会で準優勝し、またベストディベーター賞では秀島真奈さん（2 年）が 2 位、大槻聡志君（1 年）が 6 位で表彰されました。この結果、第 7 回全国高校生英語ディベート大会 in 千葉への出場権を獲得し、同大会では 2 勝 2 敗 1 分の成績で出場 64 校中 35 位となりました。

文学部は第 13 回文芸コンクール（長野県高文連）で植松ゆきさん（3 年）「ゆらゆら」が散文部門で優秀賞、中村建君（3 年）「道徳の教科書」が散文部門で佳作を受賞しました。

生物部は、の守屋友一朗君（2 年）、春日伸君（2 年）が、熊本市国際交流会館大ホールで開催された「バイオ甲子園」に参加し、「長野県諏訪湖のプランクトン」を発表して特別賞（マルキン食品賞）を受賞しました。

演劇部は第 29 回長野県高等学校演劇合同発表会に出場し、「優良賞」を受賞しました。

学友会行事

4 月の対面式、新入生歓迎会、歓迎乗艇、クラスマッチに始まった学友会行事は、清陵祭で最高潮に達し、その後 2 年生へと引き継がれ、伝統の端艇大会、湖周マラソン、クラスマッチ等を行いました。

第 62 回清陵祭は、6 月 29 日（金）から 4 日間行われました。1 日目（前夜祭）は、仮装コンテスト、談話会、美人（女装）コンテスト、有志ステージ等、遊興的イベントが多く行われました。

2 日目の午前中には、開祭式、文化講演会が行われました。文化講演会は、宗教学者の島田裕巳氏を招聘し、「人はなぜ洗脳されるのか」の演題でオウム事件の核心や新興カルト宗教の洗脳術などたいへん興味深い内容を巧みな話術で講演いただきました。

2 日目午後から 3 日目にかけては一般公開になり、各教室やステージにおいて文化系クラブあるいは S S H の展示発表や演奏など、コモンスペースを中心とした娯楽企画や喫茶、運動系クラブの O B 戦などが展開されました。

4 日目（後夜祭）は、午前は合唱コンクール、午後は運動会が行われました。いずれも 3 年生が受験勉強による鬱憤を晴らすかのような圧倒的なパフォーマンスをみせました。

夕刻からは、ファイアーストームの炎とともに青春の想いを燃え上がらせ、例によって最後は泥まみれとなり幕を閉じました。

端艇大会は、9 月 3 日（月）、下諏訪漕艇場において開催されました。開始時点では好天でしたが、次第に風が強まり、危険回避のため予定レースの後半部を翌日に持ち越し展開になりました。2 日にまたがって行われるのは極めて異例のことです。結果は、女子優勝が 3 年 3 分、男子、混合、そして総合の優勝は 3 年 2 分がさりました。

第 99 回湖周マラソンは、10 月 25 日（木）、秋晴れのもと、今年も多数の O B ランナーの参加を得、現役生とともに健脚を競いました。「うしまさ坂」では、恒例のレモン配布を「うしまさ坂の碑保存会」の皆さまを中心に行っていただきました。男子優勝は塚田佳生君（1 年 1 部）、女子は岩波宏佳さん（2 年 4 部）が 2 連覇の快挙を達成しました。

さて、出身中学校により組織される「地方会」活動は、様々な問題を孕みながらも 100 年余にわたり本校の独自性の一翼を担ってきました。しかし近年、本来の存在意義をはるかに逸脱した過激な行為等が表面化し、出身中学校の多様化も相俟って、その必要性について職員、生徒ともに真剣に、深く議論を重ねてきました。その結果、本年度をもって地方会を解散する結論に至り、最終的に学友会総会で承認されました。生徒たち自らが、地方会の活動を検証し苦しんで導き出した英断です。地方会が有していた良い部分の清陵の精神を、校歌指導を含め今後どういった形で継承していくか、これからの学友会の活動に期待するところです。

学校行事・授業など

学校では、春と秋、土曜日に授業公開を行っていますが、秋の授業公開（10/20）にあわせて P T A 講演会が行われました。本年度は人権教育係との共催で実施し、保健師の北原慶作氏、グループホーム世話人の岩井美季氏、グループホーム入居人の木下庄一氏、岡田孝司氏を講師にお招きし、「知っておきたいこころの病気のこと」と題してご講演いただきました。なお、平成 25 年の授業公開は 5 月 18 日（土）、10 月 12 日（土）です。興味のある方はぜひご参加下さい。

また、毎年分野別に多くの講師の方をお迎えして行われるキャリア講演会（1 学年主催）では、同窓生である、原田昌彦氏（83 回・東北大学大学院農学研究科農学部准教授）にもご協力いただきました。

また、音楽の選択授業を通して参加した中山晋平記念音楽賞の作曲募集高等学校の部で、高木奏さん（2 年）が優秀賞を受賞しました。

スーパーサイエンスハイスクール（S S H）

S S H は、平成 22 年度より新たに 5 年間の指定をうけ、3 期目の 3 年目となる活動に取り組みました。主な活動は、S S H 講座生徒（3 年 22 名、2 年 30 名）による課題探究とその成果の発表、大学・企業との連携講座（8 回）、海外科学セミナー（アラスカ研修）、清陵サイエンスフォーラム 21 でした。

全校生徒が参加し地域にも公開している清陵サイエンスフォーラム 21 は、以下の 3 回を実施しました。

回・期日	講 師	演 題
第 38 回 4 月 14 日	桜井 進 サイエンスナビゲーター・ 東京工業大学世界文明セン ターフェロー	驚異の数 円周率 π の世界
第 39 回 7 月 7 日	小林 快次 (よしつぐ) 北海道大学総合博物館准教 授	恐竜調査と最新恐竜 研究
第 40 回 12 月 8 日	花里 孝幸 信州大学山岳科学総合研究 所教授	諏訪湖から学んだ、 人間社会と生態系の 関わり

11 月に行われた「第 2 回信州サイエンステクノロジー
コンテスト」では 2 年生主体のチームで出場して、第 2 位
となりました。昨年の優勝には届きませんでしたが、参加
したメンバーにとってはたいへん充実した大会となりまし
た。長野県学生科学展では、小澤晶徳君（3 年）が「Excel
を用いた交通渋滞シュミレーション」で優良賞、石城陽太
君（3 年）が「フラックス法によるルビー結晶の生成」で
入賞しました。また、全国高校生物オリンピックでは、三
澤信之君（3 年）が一次選考を通過して全国大会出場権を
獲得しました。

なお、本年度は第 3 期の中間評価を文部科学省から受け
ました。連携講座等の事業を継続的に実施するのみならず、
より多くの生徒を S S H 事業の対象とすること、カリキュ
ラムの開発・研究をさらに深めるようにとの指摘を受けま
した。そこで、来年度からは 1、2 年生には全員必修の「S
S H 情報」、2 年 S S H 講座には「科学英語入門」という
学校設定科目を設けて実施します。また、1 年生ではキャ
リア教育の一環として、地域の最先端技術産業の見学・研
修を行います。

3 月 2 日（土）第 65 回卒業式が行われ、238 名（男 144 名、
女 94 名）が旅立ちました（116 回生）。進学先は表のと
おりです。

また、3 月 25 日（月）の離任式では、11 名の先生方
をお送りしました。

平成 24 年度末 教職員人事異動

転・退職職員		新任職員		
氏名	転出先等	教科	氏名	前任校等
新井 秀典	松本県ヶ丘高	国語	雨宮 明弘	松本県ヶ丘高
広瀬 隆		社会	小松 清實	
朝倉 三好	飯田市立高陵中	数学	上條 浩	塩尻志学館高
松崎 充博	松本深志高		牛山 敏章	高遠高
			竹澤 愛子	
藤森 秀則	諏訪二葉高	芸術	赤沼 京子	木曽青峰高
上原 一馬	丸子修学館高		百瀬 登	白田高
高嶋 秀樹	伊那弥生ヶ丘高		横田 真	岩村田高
天野ひとみ		英語		
栗林ひろ子				
		中高一貫教	矢崎 知広	茅野市立東部中
		育準備室	吉澤 秀幸	茅野市立北部中
小口 稔	上伊那地方事務所	事務長	長崎 淳	佐久地方事務所
岡村 一	松本建設事務所	事務	小林 穂花	新規採用

平成 24 年度入試結果

卒業生数：238 就職者数：1 進学者数：172 現役進学率：72.3%

国立大学	現役生	過卒生	合計
北海道	3		3
東北	2	3	5
筑波	2	1	3
宇都宮		1	1
千葉	4	1	5
電気通信	1		1
東京	2	2	4
東京医科歯科	2		2
東京外国語	2	1	3
東京芸術	1		1
東京工業	2	2	4
東京農工	3		3
横浜国立	1		1
上越教育	1		1
新潟		1	1
金沢	2		2
山梨	2	1	3
信州	30	6	36
岐阜	1		1
静岡		1	1
名古屋	1		1
三重	1	1	2
京都		2	2
神戸	1		1
鳥取		1	1
広島	1		1
九州	1		1
合計	66	24	90

公立大学	現役生	過卒生	合計
国際教養		1	1
会津		1	1
茨城県立医療	2		2
群馬県立県民健康科学	1		1
高崎経済	3	1	4
千葉県立保健医療	1		1
首都大学東京	5	4	9
横浜国立	1		1
都留文科	2	2	4
山梨県立	1		1
長野県看護	1		1
静岡県立	1	1	2
愛知県立	1		1
名古屋国立	1		1
奈良県立医科	1		1
秋田公立美術	1		1
合計	22	10	32

文科学所管外	現役生	過卒生	合計
水産大学校	1		1
防衛医大		1	1
合計	1	1	2

私立大学	現役生	過卒生	合計
国際医療福祉	3		3
獨協医科	1		1
高崎健康福祉	2		2
埼玉医科		1	1
城西	1		1
獨協	3		3
日本保健医療	1		1
文教	3	3	6
神田外語	2		2
青山学院	7	4	11
亜細亜	1		1
嘉悦		1	1
学習院	1	5	6
北里	3	2	5
共立女子	2		2
杏林	2	1	3
慶應義塾	5	4	9
工学院		1	1
國學院	1	2	3
国士館		1	1
駒澤	5	4	9
駒沢女子	1		1
芝浦工業	3	27	30
昭和	1	1	2
昭和女子	1		1
昭和薬科	1		1
上智	4	3	7
成蹊	3	1	4
成城	3	1	4
専修	5	6	11
拓殖	1		1
玉川	2		2

中央	16	18	34
津田塾	8		8
帝京	1	1	2
東海		3	3
東京医療保健	1		1
東京経済	5		5
東京女子	2		2
東京造形	3		3
東京電機	1	3	4
東京都市	1		1
東京農業	12	1	13
東京薬科	4	2	6
東京理科	8	8	16
東邦		1	1
東洋	6	2	8
二松学舎		1	1
日本	8	6	14
日本女子	5	1	6
文京学院	2		2
法政	14	15	29
星薬科		1	1
武蔵	1		1
武蔵野	4	1	5
武蔵野美術	4	1	5
明治	25	17	42
明治学院	9	7	16
明治薬科	1	1	2
明星	2	2	4
目白	1		1
立教	6	9	15
立正	1	1	2
早稲田	10	5	15
麻布	1		1
神奈川	3	2	5
相模女子	1		1
新潟医療福祉	1	1	2
新潟薬科	1		1
金沢工業	6	2	8
健康科学	1		1
佐久	1		1
諏訪東京理科	2	2	4
長野		1	1
松本	1		1
岐阜医療科学	3		3
岐阜聖徳		2	2
中京学院	1		1
愛知	1		1
愛知医科	2		2
愛知工業		1	1
中京	7		7
中部	1		1
豊橋創造	2		2
名古屋経済		1	1
名古屋芸術	2		2
藤田保健衛生	1		1
名城	1	1	2
京都医療科学	1		1
京都産業	2		2
京都精華	1		1
京都造形芸術	2		2
京都橘	1		1
同志社	1	7	8
明治国際医療	1		1
龍谷	3		3
立命館	8	14	22
大阪工業	2		2
大阪経済法科		2	2
関西		1	1
近畿	4	1	5
関西学院	1	1	2
川崎医療福祉	1		1
立命館アジア太平洋	2		2
産業医大		1	1
合計	298	215	513

国公立短大	現役生	過卒生	合計
長野県短大	1		1
合計	1		1

私立短大	現役生	過卒生	合計
松本短大	1		1
合計	1		1

専門学校	現役生	過卒生	合計
トヨタ自動車専門学校	1		1
合計	1		1

平成 24 年度
定期総会の記

実行委員会と企画

79 回生は、23 年 6 月から 24 年 6 月の総会に向けて、12
回の実行委員会を開催しました。78 回の先輩による素晴
らしい企画を目撃した当日、25 名による意見交換からス
タート。しかし「我が学年には、卒業以来会報の編集に携
わってきた小口修平君がいる」という安堵感も手伝って、
総会の企画については、あっさり夏休みの宿題となりました。
休み明けの実行委員会で、宿題の存在を覚えていたの
は若干名。そんな中で、金太（岩波金太郎実行委員長）が、
M 監督への熱い思いを語りました。彼は中洲小時代に対面
した平林たい子への感動から、「すばらしい人の生の声を、
諏訪の子ども 1000 人に聞いてもらいたい。諏訪の子ども
に、大きな夢をもって生きていく人間になってほしい。そ
れを、中高一貫校開設への贈り物にしたい」と 3 年前から
の構想を語りました。ジブリ美術館での待ち伏せ、手紙、
更には諏訪湖新作花火を見物するとの情報に基づく作戦も
披露しました。一同は、この『海に投じた小瓶の手紙』を、「待
つこと久し」。12 月の第 5 回実行員会まで待ち続け、残念
ながら M 監督は断念しました。

講演会

テーマは、『中高一貫教育—岡山操山と諏訪清陵—』講
師は、前岡山操山中・高等学校長の國友道一先生にお願い
いたしました。創立 110 周年の伝統校で、女性初のメダリ
ストの人見絹枝や歴代岡山県知事を輩出したのに、伝統
にあぐらをかいてしまった。平成 14 年の中高一貫教育開
始で、どのような学校づくりをめざしたか。事例豊富にわ
かりやすく、そのリーダーシップをお話しいただきました。
加えて本校佐倉俊教頭との対談を、吉田和正教諭（79 回）
の司会で行いました。「内進生と外進生のミックスホーム
ルームによる補完」と「教職員間の足並みをそろえ、方向
性をぶらさない指導」の大切さが印象に残りました。

懇親会

ご来場いただいた O B 各位を、「おもてなしすることに
徹しよう」と申し合わせをしました。幹事学年の席は設け
ずに、ピンクの名札をつけて、各テーブルへ散ってホスト

役を務める。料理も、
例年大量に残ることへ
の反省を踏まえて、バ
イキングとしました。
斎藤正行委員長よれば、
ビールが 339 本と、想
定した 200 本を上回っ
たので、みなさまに満
喫していただけたのか
々と自賛しております。



懇親会ステージに披露された新調の千万
人旗

東京清陵会

坂本純代表幹事を中心に、活発に動きました。東京清陵
会だよりは 3 部構成で発行。1 部に自然と人間として、生
誕 100 年の新田次郎と南極観測隊長の小口高を特集。2 部
には、79 回生技術者の鼎談。3 部には、中高一貫準備の現
場を吉田和正君が語りました。諏訪を何往復もして取材し
た、編集子各位の情熱に敬服です。総会も、松下勲同窓会
長、守屋郁男教頭先生をご来賓に、盛況裡に開催されました。

揮毫

孟子の千万人旗を、後半も含めて対句にして金井久司君
が揮毫しました。記念品として、今後も総会に使ってい
だこうと 80 回生へ引き継ぎました。同窓会館の 2 階をお
借りして、18 名が見守る中で、一気呵成に書き上げ、乾
杯しました。今後は、かかなき会として活動を継続いたし
ます。当番幹事を終えて、同窓生各位のお力添えに心から
感謝いたします。ありがとうございました。

高木保夫（79 回）記

お陰様で創業 60 周年
これからも誕生日・結婚式・お土産には
アニバーサリーチロルをご利用ください

アニバーサリーチロル有限会社

代表取締役社長 高橋幹彦（80 回生）

茅野市ちの 7015 TEL0266-72-2547
http://www.5f.biglobe.ne.jp/~tirol-chino/

この街と生きていく。

諏訪地域に本店のある地元の金融機関として、地域との共存共栄をめざす諏訪信金の決意です。



諏訪信用金庫

理事長 花岡 粧好（68 回）

〒394-8611 岡谷市郷田 2 丁目 1 番 8 号 TEL 0266-23-4567 http://www.suwashinkin.co.jp

平成 24 年度 諏訪清陵高校同窓会 会務報告

4 . 4 諏訪清陵高校第 118 回生入学式(新入生 241 名)
松下会長祝辞、今井副会長出席

○新入生に「校歌」CD と「清水ヶ丘にうたう」DVD を贈る

4 . 9 第 5 回名簿委員会 (14：00 清陵会館)

4 . 13 母校への着任教職員歓迎会 (18：00 ぬのはん)
今井副会長、事務局長出席

4 . 28 上伊那支部総会 (15：30 たつのパークホテル)
松下会長、佐藤学校長出席

5 . 17 (一財)諏訪清陵会会計監査・同窓会会計監査
(13：30 清陵会館)河西節郎監事、鮎沢茂登監事、松下会
長、今井副会長、石田清陵会書記、事務局長出席

5 . 18 定期総会運営の打ち合わせ (13：30 清陵会館)
79 回生 4 名、事務局長出席

5 . 21 第 6 回名簿編集委員会 (14：00 清陵会館) 名
簿編集委員、事務局長出席

6 . 2 (一財)諏訪清陵会理事会 (11:30 清陵会議室)
○平成 23 年度事業報告・収支決算の承認、一般財団法人
への移行について

同窓会常任幹事会 (13:30 母校会議室)

○幹事会提出議案審議

同窓会幹事会 (15:30 清陵会館)

○平成 23 年度事業・会計決算承認

○平成 24 年度事業案・予算案承認

○役員改選について

○母校創立 120 周年記念事業について

○母校中高一貫校の経過と今後について、その他

懇親会 (17：30 清陵会館)

6 . 21 「清陵同窓会報」第 38 号発送 (20,311 通)

6 . 30 定期総会 (13:30 ホテル紅や)

(議長：小林光富士見支部長)

○平成 23 年度事業報告、会計決算報告、監査報告

○一般会計・一般基金・会報特別会計・会館維持・特別会
計・清陵クラブ同窓会後援会特別会計・平成 24 年度事業案・
予算案承認

○役員改選 会長・副会長・監事全員留任 武居浩明事務
局長 (56 回) 退任、林隆憲 (68 回) 就任

○母校創立 120 周年記念事業について

○母校中高一貫校の経過と今後について

○(一財)清陵会についての報告、その他

講演会・対談

テーマ：中高一貫教育一岡山操山と諏訪清陵

講師：國友道一先生 (前岡山操山中高等学校校長) 佐倉俊
先生 (諏訪清陵高等学校教頭)

懇親会

8 . 25 原支部総会 (11：00 樺の木荘) 松下会長、守
屋教頭出席

○荒木桂男支部長 (63 回) 退任、荒木敬悦 (72 回) 就任

9 . 14 当番幹事学年引継会 (19：00 仙岳) 松下会長、事
務局長、79・80 回生、計 15 名出席。79 回生から 80 回生へ

10 . 6 新艇贈呈式・進水式 (清陵艇庫) 松下会長、今
井副会長、事務局長出席

○「天竜」「富士」の 2 艇進水 (同窓会寄付額 50 万円)

10 . 12 東京清陵会総会 (18:00 アルカディア市ヶ谷)
松下会長 守屋教頭 事務局長出席

10 . 25 母校湖周マラソン

○B 20 名が参加し、他に「うしまさ坂」にて応援

10 . 31 清陵付属中学校校舎実施設計決定について学校

より説明会 (10：00 母校応接室) 松下会長、今井副会長、
事務局長出席

11 . 10 物故会員道志社先輩の慰霊法要 (11:00 地藏寺)
松下会長、佐藤学校長、副会長、監事、常任幹事 21 名出席

臨時常任幹事会

○母校創立 120 周年記念事業について

○母校中高一貫校の経過と今後について

○母校「助成基金特別会計」について

○今後毎年「11 月第 2 土曜日」に慰霊法要と常任幹事会
を予定

11 . 16 諏訪支部総会 (18:00 諏訪シティホテル成田屋)
松下会長、佐藤学校長、事務局長出席

○堀内昌翰支部長 (66 回) 退任、伊藤八郎 (68 回) 就任

1 . 22 同窓会事務局会

平成 25 年度予算編成会議 (3：00 清陵会館) 松下会長、
今井副会長、事務局長出席

2 . 6 「清水ヶ丘にうたう」DVD 増版 (1,000 枚)

2 . 9 茅野支部総会 (15：30 マリオローヤル会館)
今井副会長、佐倉教頭、事務局長出席

2 . 9 東海支部総会 (11：00 キャッスルプラザ) 松
下会長、守屋教頭出席

2 . 15 北信支部総会 (18:00 ホテル国際 21) 松下会長、
佐藤学校長出席

2 . 16 三澤文庫講座 (13：00 清陵会館) 生徒・職員・
同窓生など合計約 30 名参加

演題：医療への道～私の体験から～

講師：諏訪赤十字病院院長小口寿夫先生 (64 回)

2 . 22 岡谷支部総会 (18：30 ホテル岡谷) 松下会長、
佐倉教頭出席

2 . 23 (一財)清陵会理事会 (11：30 母校会議室)
○平成 25 年度事業計画・収支予算の承認、その他

同窓会常任幹事会 (13：30 清陵会館)

○幹事会提出議案審議

同窓会幹事会 (15：30 清陵会館)

○平成 24 年度会務中間報告

○平成 25 年度事業計画案・予算案について

○母校創立 120 周年記念事業について

○母校中高一貫校の経過と今後の見通しについて、その他
懇親会 (17：30 清陵会館)

2 . 24 富士見支部総会 (15：00 大奥) 松下会長 佐藤
学校長出席

○小林光支部長 (60 回) 退任、水野俊彦 (63 回) 就任

3 . 2 母校 116 回生卒業式 (卒業生 238 名) 松下会
長祝辞、今井副会長出席

○同窓会から会長のメッセージを添えて卒業記念として
「印鑑セット」を贈呈

3 . 8 下諏訪支部総会 (18:00 ぎん月) 松下会長、佐
藤学校長出席

3 . 9 松本支部総会 (16:00 ホテルモンターニュ松本)
松下会長、佐藤学校長出席

3 . 17 関西支部総会 (11：00 大阪第一ホテル) 松下
会長、佐藤学校長出席

○上島武支部長 (57 回) 退任、小坂祥造 (63 回) 就任

3 . 25 母校転退職員送別会 (18:00 浜の湯) 松下会長、
今井副会長、事務局長出席

○同窓会より饞別 (小口事務長ほか 11 名へ)

平成 24 年度同窓会一般会計決算書 (案)

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

収 入 総 額	10,156,545 円
支 出 総 額	9,615,242 円
次年度繰越額	541,303 円

Ⅰ 収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	762,640	762,640		
入 会 金	1,205,000	1,210,000	△ 5,000	新入生 242 名
終 身 会 費	4,820,000	4,840,000	△ 20,000	新入生 242 名
受 取 利 息	30,000	13,585	16,415	
物品販売収入	30,000	25,800	4,200	校歌 CD、清水ヶ丘に うたう DVD 他
その他雑収入		4,520	△ 4,520	宛名シール代、印刷機 使用料
繰 入 金	2,300,000	3,300,000	△ 1,000,000	基本財産取崩し (追 加 100 万円)
収 入 合 計	9,147,640	10,156,545	△ 1,008,905	

Ⅱ 支出の部				
科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
土曜講座助成金	2,300,000	2,300,000	0	
SSH 事業助成金	300,000	270,000	30,000	
その他助成金	170,000	1,615,294	△ 1,445,294	新艇購入、記念品、大 会出場激励金、清水ヶ 丘にうたう DVD 増 版・出版補助
(一財)諏訪清陵会寄付金	500,000	500,000	0	
定期総会費	350,000	328,161	21,839	
支部活動奨励金	0	485,660	△ 485,660	(旧) 支部総会祝儀
その他事業費	0	271,315	△ 271,315	(旧) 予備費：TV 番 組制作協力金、他
会報会計繰出金	1,800,000	1,800,000	0	別途名簿会計へ 1000 万円
会館維持会計繰出金	50,000	50,000	0	
給 料 手 当	480,000	480,000	0	事務局長(月額 4 万円)
会 議 費	200,000	203,954	△ 3,954	役員会他
旅 費	500,000	539,620	△ 39,620	役員会交通費、出張旅 費
事 務 所 費	1,240,000	771,238	468,762	事務消耗品、通信費、 備品費、慶弔費
支 出 合 計	7,890,000	9,615,242	△ 1,725,242	
次年度繰越金	0	541,303	0	

諏訪清陵高校同窓会 基本財産目録

基本財産 35,400,379 円 (平成 25 年 3 月 1 日現在)

(内訳) 定期預金 諏訪信用金庫 31,000,000 円
同 八十二銀行 4,400,379 円

平成 24 年度 同窓会報特別会計決算報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

収入額	2,630,757 円 (繰越金 一般会計より繰入金・広告収入等)
支出額	2,212,000 円 (会報 38 号編集印刷費・発送料等)
差引残額	418,757 円 (平成 25 年度へ繰越)

平成 24 年度 清陵会館維持特別会計決算報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

収入額	1,118,017 円 (繰越金 繰入金・利息)
支出額	0 円
差引残額	1,168,196 円 (平成 25 年度へ繰越)

平成 24 年度 120 周年記念事業特別会計決算報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

収入額	10,000,799 円 (繰入金・利息)
支出額	1,779,772 円
差引残額	8,221,027 円 (平成 25 年度へ繰越)

平成 25 年度同窓会一般会計予算書 (案)

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

収 入 総 額	10,626,303 円
支 出 総 額	10,626,303 円
次年度繰越額	0 円

Ⅰ 収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
前年度繰越金	541,303	762,640	△ 221,337	
入 会 金	1,205,000	1,205,000	0	新入生 241 名
終 身 会 費	4,820,000	4,820,000	0	新入生 241 名
受 取 利 息	15,000	30,000	△ 15,000	
物品販売収入	25,000	30,000	△ 5,000	
その他雑収入	20,000	0	20,000	
繰 入 金	4,000,000	2,300,000	1,700,000	基本財産取崩し
収 入 合 計	10,626,303	9,147,640	1,478,663	

Ⅱ 支出の部				
科 目	予算額	決算額	増 減	備 考
土曜講座助成金	2,300,000	2,300,000	0	自反会
SSH 事業助成金	300,000	300,000	0	アラスカ研修補助他
その他助成支出	1,170,000	170,000	1,000,000	卒業生記念品代、大会 出場激励金、中学開校 記念事業他
(一財)諏訪清陵会寄附金	500,000	500,000	0	
定期総会費	350,000	350,000	0	運営費、資料印刷費、 広告代他
支部活動奨励金	500,000	0	500,000	(旧) 支部総会祝儀
その他事業支出	95,000	0	95,000	(旧) 予備費
会報会計繰出金	1,800,000	1,800,000	0	
会館維持会計繰出金	50,000	50,000		
母校助成基金繰出金	1,500,000	0	1,500,000	新規積立
給 料 手 当	480,000	480,000	0	事務局長給与
会 議 費	200,000	200,000	0	役員会他
旅 費	500,000	500,000	0	役員会交通費、出張 旅費
事 務 所 費	840,000	1,240,000	△ 400,000	事務消耗品、通信費、 備品費、慶弔費
予 備 費	41,303	1,257,640	△ 1,216,337	
支 出 合 計	10,626,303	9,147,640	1,478,663	

平成 25 年度 諏訪清陵高校同窓会 事業計画

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

母校教育助成事業

1. 第 4 期 (平成 24 年～28 年) クラブ活動同窓会後援会募金
2. 土曜講座「自反会」助成
3. スーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) 事業助成
4. 清陵中学開校関係助成
(中学棟教育設備整備、記念講演会、記念品)
5. 新入生・卒業生記念品贈呈
6. 一般財団法人諏訪清陵会運営支援
(役員就任、運営費寄付)
7. 湖周マラソン第 100 回記念事業
8. ブロンズ像「黎明」(清水多嘉示作) クリーニング

同窓会員交流事業

1. 平成 25 年度定期総会開催
2. 「清陵同窓会報」第 39 号発行 (編集担当 80 回生)
3. 各支部活動の促進
4. 母校創立 120 周年記念事業推進
(同窓会名簿調査、母校教育設備整備拡充)
5. 道志社先輩・物故会員慰霊法要

地区支部だより

	関西支部	東海支部	東京支部	松本支部	上伊那支部	北信支部
支部役員	支部長：小坂祥造 (63 回) 副支部長：今井文人 (52 回)、小林悟郎 (56 回)、今井稔子 (58 回)、山田正幸 (59 回) 監事：松木本興 (61 回) 相談役：河西計介 (42 回) 事務局長：吉澤啓介 (57 回) 事務局連絡先： 〒 666-0129 川西市緑台 7-3-15 TEL・FAX: 072-793-8668 E-mail:k.yoshizawa@gaia.eonet.ne.jp	支部長：太田龍朗 (61 回) 副支部長：下枝晴彦 (61 回)、佐々木忠男 (64 回) 事務局長：小林良章 (75 回) 事務局次長：濱隆二 (73 回)、矢澤弘司 (81 回) 幹事：浜一吉 (65 回)、保坂秀正 (68 回)、小口真紀雄 (72 回)、今井啓雄 (89 回) 会計監査：今井安栄 (67 回) 顧問：錦見高広 (42 回)、竹村弘 (44 回)、岩田昌久 (50 回)、小松久夫 (59 回) 事務局連絡先： 岐阜県多治見市脇之島町 4-31-15 TEL：090-9912-3428 FAX：0266-52-1699 E-mail：kobayashi@ryu-9.com	会長：藤森宏一 (63 回) 副会長兼事務局長：平林千義 (67 回)、 副会長：長田宏子 (62 回)、金子充宏 (65 回) 会計幹事：有賀朝彦 (63 回) 監査幹事：今井恒夫 (57 回)、小海健治 (84 回) 事務局次長：小林國利 (62 回)、林健康 (72 回)、関屋孝行 (76 回)、北原謙 (82 回) 赤羽俊昭 (84 回) 事務局連絡先： 〒 113-0033 東京都文京区本郷 1-10-14 加奈利屋館 7 階小林公認会計士事務所内 TEL・FAX：03-3812-5887 E-mail：ch3hirarin@yahoo.co.jp	支部長：藤森弘 (60 回) 支部幹事：山田巻義 (64 回) 会計監事：赤羽英勝 (60 回) 事務局連絡先： 松本市蟻ヶ崎 3-7-20 藤森方 TEL・FAX：0263-32-7016 E-mail：h131213f@coral.plala.or.jp	支部長：大森尚人 (68 回) 副支部長：伊藤隆一 (58 回) 幹事：土屋隆 (60 回)、長谷川茂夫 (60 回)、林靖 (62 回)、川島弘 (73 回)、福島正寿 (80 回)、橋本実樹 (83 回)、中村海基 (92 回) 会計幹事：武居保男 (80 回) 事務局：赤羽博 (78 回) 事務局連絡先：辰野町樋口 2219 TEL: 090-2152-2892 (支部長自宅) FAX: 0266-43-2822 E-mail: flat-director@honey.ocn.ne.jp ※連絡はメール宛先で	支部長：高見澤忠明 (61 回) 副支部長：岩本弘 (65 回)、有賀良夫 (68 回)、花岡佳市 (71 回)、中村博 (72 回) 幹事：井上英 (85 回) 事務局連絡先： 長野市吉田 4-10-32-911 (井上自宅) TEL・FAX：026-259-6354 E-mail:suguru-i@shinmai.co.jp
直近の支部総会	日時：平成 25 年 3 月 17 日 場所：大阪第一ホテル 出席者：45 名 [総会] 予算、決算、活動計画等	日時：平成 25 年 2 月 9 日 場所：キャッスルプラザ (名古屋市) 出席者：23 名 [講演] 国立長寿医療研究センター病院長鳥羽研二氏 (73 回)「認知症医療の新しい潮流・予防から終末期まで」	日時：平成 24 年 10 月 12 日 場所：アルカディア市ヶ谷 出席者：185 名 [総会] 会務報告、事業計画、会計報告、予算、役員改選、懇親会	日時：平成 25 年 3 月 9 日 場所：ホテルモンターニュ松本 出席者：12 名 新設される中学について学校から説明を受け、話題もこのことに集中した。	日時：平成 24 年 4 月 28 日 場所：たつのパークホテル 出席者：38 名 [総会] 事業・決算報告、事業計画・予算、役員改選 [講演] 新村清志氏 (64 回・信大客員教授)「ヨーロッパと日本」	日時：2013 年 2 月 15 日 場所：ホテル国際 21 (長野市) 出席者：約 50 人 小松裕代議士 (83 回・比例北陸信越) が国政報告をした。 ここ数年は若い同窓生 (30、40 歳代) の参加が増える傾向にある。
前年度活動	・ゴルフコンペ開催 (5 月、10 月) ・仁徳楼から堺旧市街の街並みを歩く (5 月・12 名参加) ・秋津州の道を歩く (11 月・10 名参加) ・会報第 21・22 号発行	新入会員獲得状況 34 名に加入案内を送付し 4 名加入 ・ゴルフ会の開催 ・清陵同窓会本部、東京同窓連、南信同窓連の会議及び催し物への参加 ・寒水会 (小石川高校同窓会との共催) への参加 ・清陵勉強会 (隔月開催)	・東京清陵會だより第 23 号の発行 ・ゴルフ会の開催 ・清陵同窓会本部、東京同窓連、南信同窓連の会議及び催し物への参加 ・寒水会 (小石川高校同窓会との共催) への参加 ・清陵勉強会 (隔月開催)	・役員会 (支部情報交換、会員名簿整理)		
今年度の計画	・総会 (26 年 3 月開催予定) ・ゴルフコンペ (2 回) ・歩こう会 (4 月 5 日・酒と歴史が薫る伏見を歩く) ・会報第 23・24 号発行	・総会 (26 年 1～2 月頃) ・引き続き当地区在住の若手会員の獲得に努力。	・東京清陵會だよりの発行 ・総会・懇親会の開催 (アルカディア市ヶ谷・10 月 18 日 17:00) 勉強会の開催 ・ゴルフ会の開催	総会を秋 10 月か 11 月に実施したい。講演も計画したい。新役員の選考を早めをしたい。	・役員会 (支部情報交換、会員名簿整理)	

医療法人 順 恵 会

伊藤外科医院

院長 伊藤隆一 (第58回生)

医学博士

長野県上伊那郡辰野町大字伊那富7483
TEL 0266-41-3388

不二屋代表取締役 新村良雄 (四九回)

下諏訪町四ツ角 新 村 隆 (八五回)

TEL (〇二六六) 二七―八五〇五
FAX (〇二六六) 二八―七〇九五

諏訪名産 初霜

	原支部	富士見支部	茅野支部	諏訪支部	下諏訪支部	岡谷支部
支部役員	支部長：荒木 敬悦 (72 回) 副支部長：事務局：藤原光郎 (75 回) 事務局連絡先： 〒 391-0106 諏訪郡原村菰蒲沢 10115 番地 2 藤原方 TEL：0266-79-4019 E-mail: qqvw8ux9k@lime.ocn.ne.jp	支部長：水野俊彦 (63 回) 副支部長：小池邦治 (70 回)、名取重治 (72 回) 事務局・会計：五味昭二 (75 回) 事務局連絡先： 富士見町境 2790 水野方 TEL・FAX 0266-64-2575 E-mail:toshibohsan@po31.lcv.ne.jp	支部長：金井修 (63 回)、副支部長：北原正信 (69 回) 事務局長：樋口尚宏 (77 回) 事務局連絡先： 茅野市金沢 2412-1 樋口方 TEL：0266-72-8302 FAX：0266-72-8302 E-mail:nhiguchi@po26.lcv.ne.jp	支部長：伊藤八郎 (68 回) 副支部長：小松重一 (70 回) 事務局長：藤森富雄 (68 回) 会計：矢崎勝美 (70 回) 事務局連絡先： 諏訪市上諏訪 9268-2 藤森方 TEL：0266-53-9833	支部長：小松新平 (64 回) 副支部長：中村國彦 (65 回)、小口俊吉 (66 回) 事務局長：小松陸男 (67 回) 事務局連絡先： 〒 393-0023 下諏訪町富ヶ丘 9513-7 小松方 TEL：0266-28-5898	支部長：花岡枉好 (68 回) 副支部長：佐原一誠 (64 回生)、小口憲司 (69 回)、竹村文男 (72 回) 事務局連絡先： 〒 394-8611 岡谷市郷田 2-1-8 諏訪信用金庫内 TEL：0266-23-4567 FAX：0266-24-4055
直近の支部総会	日時：平成 24 年 8 月 25 日 場所：ハヶ岳高原樫の木荘 出席者：15 名	日時：平成 25 年 2 月 24 日 場所：大奥 出席者：36 名 [講演] 小林晋作氏 (57 回生・富士見町神戸区出身)「IPS 細胞と創薬」 懇親会には小林一彦町長 (65 回生) も初めて参加した。	日時：平成 25 年 2 月 9 日 場所：マリオローヤル会館 出席者：70 名 [講演] 諏訪東京理科大学経営情報学部教授五味嗣夫氏 (72 回)「急変する中国」	日時：平成 24 年 11 月 16 日 場所：諏訪シティーホテル成田屋 出席者 70 名 支部長挨拶、来賓 (松下会長、佐藤学校長) 挨拶、議案審議、会務報告、役員改選 [講演] サンメディカル技術研究所顧問牛山博之氏「体内埋込型補助人工心臓 “エヴァハート” の開発」	日時：平成 25 年 3 月 8 日 場所：ぎん月 出席者：40 名	日時：平成 25 年 2 月 22 日 場所：ホテル岡谷 参加者：72 名
前年度活動				・道志社先輩・物故会員慰霊法要への参加 (11 月 10 日)	・下諏訪支部納涼会 (24 年 8 月 26 日・食祭館・31 名出席) 町議会議員中村國彦氏 (65 回) より「水資源について」の話を聞く。	・支部総会 (26 年 2 月 予定)
今年度の計画	・支部総会開催 (8 月 24 日)		・支部総会開催 (2 月)	・道志社慰霊法要への参加 (11 月 9 日) ・諏訪支部総会 (11 月 15 日)	・納涼祭 (7 月中旬から 9 月上旬) ・支部総会 (26 年 3 月)	

朝倉令子税理士事務所

税理士 朝 倉 令 子 (第 80 回生)

〒392-0010 長野県諏訪市渋崎 1791 番地 95

TEL 0266-58-3091 / FAX 0266-58-9931

http://www.asakura-office.net

info@asakura-office.net

今井内科・胃腸科
クリニック

岡谷市今井 1211

(0266) 24 - 8688
FAX (0266) 24 - 4388

今井清泰 (80 回生)

学年会短信

45 回生	今年の諏訪湖は 2 季連続で御神渡りが出現し、1 月 25 日の朝は、降りしきる雪の中、拝観式が行われた。神事を司る八剣神社は、農作物の作柄は「やや良」、世相は「現状は厳しいが、明るい兆しあり」との結果が出たとのこと。 昨年と同窓会総会（6 月 30 日）には、関弥之助君と小松一弘が出席。懇親会での最後の万歳の音頭は、出席者の中の最古者の宮坂水穂兄がされた。100 歳を迎えられた兄は第 31 回生の先輩。現在も丸高蔵の朝礼には顔を出されておられるとのこと。 また、昨年 10 月 7 日（日）の長野日報に一面にわたって、ふるさと紀行「私が選んだ心に残る風景・霧ヶ峰高原とグライダー」の写真入りの記事が掲載されていた。ふと見ると、わが 45 回生の増沢三平君の「現在の霧ヶ峰高原での当時を思い起こしている元気な姿の写真入りの記事」だった。懐かしく、すぐ電話して元気な声を聴くことができた。 新年の長野日報の賀状（1 月 1 日付）の中に、今年も東京の岩波一寛君の「ふるさとを想うたより」があった。今年も亡き師や友の冥福を祈るとともに 45 回生の健勝を諏訪の地より祈っている。 （幹事：小松一弘 TEL0266-52-6911）
50 回生 互励会	平成 24 年 8 月 17 日、諏訪市仙岳で 50 回生の夏の同期会。村上賢次君、平林茂幸君の先導で物故者の黙祷。小林互君、山仕事、畑仕事等の草刈り枝切り等のための下準備の大切さを語る。お互い年をとり大事なことだ。同年 10 月 10 日、東京神田の如水会館で秋の同期会。野口健児君、伊藤長七は大伯父だと話す。改めて第一校歌に想いをはせる。有賀英夫君、林正弘君ほかのお世話になった。今年も諏訪、東京で昨年と同月同日に同期会開催予定。 （学年幹事：宮阪芳久記）
51 回生 ごういちかい	私ども 51 回の運営ですが、毎年春夏 1 回ずつ東京、諏訪で同窓会を開催して旧交を温めております。80 歳を過ぎて身心ともにゴシタクになりましたが、皆それぞれに「我が道を行く」の精神をもって必死に生きているようで、毎回 30 ～ 40 人が集まっています。会場は東京では「帝国ホテル」、諏訪では「浜の湯」と場所は超一流です。おそらくあと 10 年は続くことでしょう。「全日本マスターズレガッタ」には 15 年連続で代表が出漕しております。これもあと 10 年は…？
52・55 回生 双樹会	今年、双樹会の多くの仲間が傘寿を迎えるが、会の美術展幹事では、秋に「傘寿記念美術展」を開催しようと準備を進めている。清陵双樹会美術展と銘打った美術展は、今までに平成 18 年から平成 22 年まで連続 5 年間開催された。これは様々なジャンルの作品を手がけている同期の有志の発案と熱意により実現したもので、回を重ねるたびに工夫が凝らされて、中には今は亡き多くの恩師の賛助作品のような出色の企画もあり、5 回の美術展は見応えのあるものになった。20 人を超える仲間の作品は、写真、ステンドグラス、水彩、油彩、書、陶芸、彫刻、土器、篆刻、拓本など多彩であった。出品作品はすべて写真に撮って 5 冊の作品集に出品者のメッセージを添えて収められ、第 5 回記念展をもって一旦終結した。 そうした経緯の美術展、是非もう一度開催したいという熱意から実現の運びとなったのが第 6 回傘寿記念美術展である。幹事は「最後の美術展になるかもしれない」と控えめだが、やるとなると、つい力が入るのが我われの常で、思い出多い作品展にしたいと準備に熱が入っている。開催時期は 10 月下旬、会場は「スワプラザ」3F の予定である。
57 回生	57 回の同期会は 2004 年に「清陵出てから 50 年」を記念して開催したあと行っていないですが、昭和 56 年に始まった NM 会ゴルフ大会（ナイスミドル）は毎年 2 回行っております。喜寿を迎えて参加者が減少傾向にあるのがさびしいかぎりです。本年も 4 月に境川カントリークラブ、8 月に諏訪湖カントリークラブで行う予定です。 平成 26 年には 80 歳を迎えますので同期会の開催を計画しております。（学年幹事：茅野嘉利記）

60 回生 睦和会	とうとう後期高齢者になります。地方では諏訪市内雲石（割烹）にて毎月 6 の日に 24 ～ 25 名が集い一杯やりながら元気を出しています。東京でも年に何回も「ミクロサロン」に登録したメンバー 48 人は多士済々好きなことと言って好きな楽しみをしています。2 年後には喜寿の祝いと合同金婚式（当年度までの有資格者）を少々賑やかにやる予定です。
61 回生	予定していた行事ができなくなりましたので遅くなりましたがお知らせします。
63 回生 六三会	本年は東京で開催いたします。時期は 9 月 13 日（金）に行ないます。東京クラス幹事が調整中で、今までに学年会参加実績のある方には、引き続きクラス幹事からご案内いたします。初めて参加を希望する方は、クラス幹事または代表幹事まで早めにお知らせいただければ、ご案内いたします。大勢の皆様のご参加をお願いいたします。 （代表幹事：久保田克明＝2 部 TEL 0266-58-9875）
65 回生	①卒業 50 周年記念誌について 卒業半世紀を記念して昨年末から作成に取りかかり、70 名からの寄稿文と 400 枚の写真が寄せられてきました。この寄稿文のほかに、「65 回生の伝統行事」「先生の思い出」「市中行進」「思い出の写真」などを掲載し、130 ページのボリュームになります。特に「思い出の写真」は 23 ページ（1 ページ 4 ～ 6 枚）を確保し、見て楽しめる記念誌にします。今のところ同年生の 4 割となる 100 部余の購入希望がありますが、まだ申し込んでない人は各部の幹事が青木まで連絡してください。価格は 3,000 円で、発行予定日は同年会（下記）開催日です。 ②同年会について 今年の開催予定は次のとおりです、詳細内容についてはさらに検討し後日連絡しますので、多数の参加をお待ちしています。 10 月 19 日（土）18：00 ～ RAKO 華乃井ホテル（諏訪市） 希望者による「ゴルフ大会」・「ボート乗艇」等も企画します。 ③「八日会」について 諏訪地域在住の 65 回生有志が集まっの飲み会である「八日会」は、引き続き実施しています。毎月 8 日の午後 6 時 30 分から上諏訪駅前の「いずみ屋」で固定開催していますので、気軽に参加してください。諏訪地域在住者以外でも諏訪へ来た際にはぜひ顔を出してください。（幹事：青木成雄 TEL0266-53-0072）
68 回生	68 回生諸君！ 集いて大いに語ろう！ 同窓会総会懇親会終了後、68 回生の第 13 回学年会を開催します。皆様には連絡できる学友と誘い合って、是非学年会にご出席ください。欠席される方で近況等連絡事項のある時は FAX 下さい。皆に伝えます。 1. 日時 6 月 29 日（土）18 時 30 分から 2. 会場 紅蘭（諏訪市湖岸通り 5-17-7 TEL 0266-58-1443 3. 会費 4000 円（当日会場で徴収）＊総会出席者は会費 2000 円となります。 4. 出席・欠席の連絡不要 ☆問合せ先：学年幹事伊藤八郎（携帯 090-7953-0665・自宅 0266-52-3769 ＝ FAX 兼用）
69 回生 無垢の会	昨年（10 月 23 日）開催しました「グランドホテル滝の湯」での宿泊・懇親会には、37 名の方々のご参加をいただき、盛大に出来ましたこと、誠にありがとうございました。翌日のフォレストカントリークラブでの第 48 回ゴルフコンペには、16 名の方々が参加し、老体？ に鞭打って頑張りました。また、女性陣は諏訪湖畔の「くらすわ」に、女性全員 12 名が集合し、女子会を開催し、友好を深めました。今年度は、ゴルフコンペ生涯 100 回開催を目指して、第 50 回を 4 月 13 日（土）、51 回を 6 月 19 日（水）、52 回を 9 月 18 日（水）、53 回を 11 月 9 日（土）に開催予定です。いずれもフォレストカントリークラブで行います。また、6 月の諏訪本部総会、10 月の東京清陵会総会終了後に、同年会「無垢の会」懇親会を開催しますので、大勢の方のご参加をお願いします。（学年幹事：矢澤博 TEL090-3312-1469・ゴルフ担当：小口憲司 TEL090-3063-5871）

暮らしと産業に
安心と快適を。

- 医療用ガス、医療機器販売
- 各種高圧ガス
- ガス関連機器販売



岡谷酸素株式会社

http://www.okayasanso.co.jp

本 社／岡谷市幸町6-6 TEL0266-22-5531
岡 谷／岡谷市湖畔2-3-7 TEL0266-22-4931

内科 小児科

山 崎 医 院

院長 山崎正彦(80 回生)

〒3 9 4 - 0 0 2 3
岡谷市東銀座 1 丁目 8 - 19
TEL0266-22-3287

牛 山 医 院

院長 牛山 千冬（80 回生）

〒394-0035 長野県岡谷市天竜町3-2-23
TEL. (0266) 78-1192

エスイー工業

代表取締役
関 市 男（80回生）

株式会社エスイー工業
〒394-0055 長野県岡谷市内山4769-52
TEL 0266-22-6670(代)
FAX 0266-22-6 6 5 6

71 回生	恒例の「71 回生学年会」を今年も同窓会総会にあわせて開催します。日時：6 月 29 日（土）PM7：00～ 場所：いつもの仙岳。今年は同日の昼の部としてゴルフコンペも開催（場所未定）。詳細は「71 回生メーリングリスト」にて。 （学年会幹事：渋谷 TEL090-4751-9642・ゴルフ幹事：小池 TEL0266-73-5892）
73 回生 なみの会	「73」をもじって「なみの会」と称している。その由来は「われわれは並」という謙虚さ？（はたまた、清陵生らしい逆説的へそ曲がり？）。それはともかく、2012（平成 24）年 7 月 7 日、「還暦の集い」を諏訪市で開いた。4 月 1 日をもって全員が 60 歳に達したのにもとう記念企画で、同期生 57 人に加え、かつての担任・白沢寛人先生が出席してくださった。定年退職や転身など、ここで人生の節目を刻んだ仲間も多く、「卒後 30 年」（母校にハナミズキを贈呈）、55 歳での同窓会当番幹事学年のとき、「卒後 40 年」（このときは校歌の額を贈呈）とはひと味ちがった盛り上がりで、今後、ネットワークを深めていく誓いを固めた。欠席者のうち 74 人が寄せた近況メッセージ集が配布されて話題が広がる一方で、総数 273 人のうち 19 人に及ぶ物故は悲痛の極み。冒頭、黙祷を捧げ、亡き友の在りし日を偲んだ。また、名簿作成の作業を通じ、音信不通者のうち 9 人の連絡先が判明したのは幸いだった。次の会合は来年の「卒後 45 年」を予定している。 （なみの会事務局：山田雄一記 TEL090-3080-3090）
76 回生	我々 76 回生は、クラスを超えた同級会を毎年お盆に行っています。昨年は、淵井先生と西原先生が出席してくださいましたし、毎年数十名の参加で盛り上がっています。また、東京支部では二金会という名称で、毎月第二金曜日に同窓生が集まっていますし、関西支部は、昨年から同窓生が 5 名に増え、こちらも定期的な集まりが実施されています。 76 回生のみなさん、今年のお盆の同級会では、第 2 回目の修学旅行や、還暦イベントの計画を練っていきたいと思っていますので、今からお盆の帰省を予定に入れておいてください。詳しくは HP をご覧下さい （http://www2.plala.or.jp/yellowcard/index.html）
77 回生	正月 2 日の同期会にはなつかしい顔ぶれが揃うことができ、ありがとうございました。次回はいよいよ節目の還暦を予定していますので宜しくお願いします。 （追伸）同窓会では名簿作成作業を展開しております。異動のあった方々はクラス幹事、または学年幹事までご一報下さい。 （学年幹事：長田光正記）
79 回生 かかなき会	総会当番幹事の大役を果たし、一同安堵しております。ご参会のみなさま、大変ありがとうございました。学年会を、2 か月に 1 度、上諏訪駅周辺で開催しております。金井久司幹事長はその就任にあたり、「2 か月にいっぺん俺と金太はここで飲んでるで、来られる人は来てくれ。議題はない。目標は、90 歳まで 200 回、一生付き合えればよい」でした。ご参画いただける方は、寺沢茂事務局長（terasawa@nichiwak.co.jp）まで、ご一報をお待ちします。
80 回生	本年度の同窓会総会および同窓会報編集幹事である 80 回生は、昨年 11 月 22 日に平成 25 年準備会の立ち上げを行い、以後数回にわたって会議を開く中で、総会班、会報班、資金班、会計に分かれて準備を行っています。準備会には諏訪地方およびその近隣に住む 27 名が参加しています。
85 回生 八五会	昨年の学年短信で予告した 85 回生の学年会ですが、2012 年 8 月 4 日に地元諏訪において担任の先生方全員を含め 120 名余りの出席をいただき、盛大に開催することができました。30 年振りに再会した懐かしい旧友との歓談、各クラスごとの近況紹介、会の名称決定、校歌斉唱と、時間はいくらあっても足りないほどで、当日は二次会が夜遅くまで続きました。それでも話は尽きず、その後も諏訪で、東京で、様々な集まりが続いています。当日の写真などは Facebook（FB）の「諏訪清陵 85 回生：八五会」のグループ内でご覧いただくことができます。まだ FB に登録されていない方、この機会に登録をご検討ください。また、八五会への連絡用として次のメールアドレスを設けています。連絡先の変更はこちらまで。suwaseiryo.085@gmail.com。次回は 2017 年に開催する予定ですので、今回出席いただけなかった方も次回はぜひご参集ください。 （幹事代表：玉本広人＝1 部・諏訪在住、小池正行＝6 部・東京在住）

有限会社

SANYU.S.S

サンユー精機製作所

専務取締役 小口 正志

(80 回生)

〒393-0087 長野県諏訪郡下諏訪町4611-109

TEL 0266 (27) 2893

FAX 0266 (28) 0813

高硬度材旋削加工

塩 野 崎 工 作 所

塩 野 崎 隆

(80回生)

〒399-0651

塩 尻 市 大 字 北 小 野 202-1

TEL (0266) 46-2346

92 回生 九二会	どなたか、熊井先生とご連絡取れる方、下記お伝え下さい。「5 年前の卒後 20 周年九二会で、先生が心配されていた伝太君が結婚しました。ご安心ください！」と。その他の近況は、横井君が東京江東区にて眼科開業。6 部同級会開催 10 名。母校教室棟がなくなり、隕石落下のように陥没……いよいよ中学棟の工事開始。2 年後の平成 27 年 6 月末土曜？ 清陵同窓会定期総会のサブ幹事学年です。当日、九二会の 2 次会企画！ （幹事：笠原健一 kenkasa@imail.plala.or.jp）
93 回生 久燦会	93 回生の柳澤寿男氏指揮による 2012 年 10 月のバルカン室内管弦楽団コンサートについて、同期の皆さんや先輩、後輩方にご協力いただきました。ここで紙面をお借りして御礼申し上げます。氏は現在、バルカン室内管弦楽団音楽監督ならびにコンボフィルハーモニー交響楽団首席指揮者として、紛争の傷跡が残るコンボと日本を歩き来しながら、平和を願って音楽活動を続けています。今年度は、出生地の塩尻市で『兵士の物語～ユーモアは平和の底力だ』（仮称）と題したコンサートを行います。2013 年 7 月 13 日（土）14：00～レザンホール（塩尻市文化センター）にて、全自由席 3000 円になります。今回のコンサートは 3 部構成で、1 部は合唱団とコラボし平和や絆をテーマにした作品を演奏、2 部は柳澤氏のトーク、3 部はストラヴィンスキー作曲の「兵士の物語」を 7 人の室内オーケストラと波田陽区、長井秀和、鼠先輩といったお笑いタレントによる語りの異色の構成で上演する。「兵士の物語」は人の決断の大切さを訴える作品。同期生で応援していきましょう。また、同窓会報をご覧になり、興味をおもちになった方は、ローソン全店でチケットが購入できます。または、レザンホール（塩尻市大門七番町 4 番 8 号 TEL0263-53-5503・FAX0263-54-1103）で直接お求めください。私は、学年幹事として、氏の応援団長を続けてまいりたいと思います。これから先も、諏訪の平らをはじめ、日本各地でもコンサートで指揮をする機会があると思いますので、同期の皆さん、ぜひ一緒に応援してまいりましょう。また、同窓生の皆様にも応援の輪を広げていかれればいいと思っています。ほかにも活躍している同期生がいれば、ぜひ応援をしていきたいと思いますので、ご連絡ください。 （学年幹事：吉川豪 yskwgo@yahoo.co.jp）
110 回生 金色会	去る平成 24 年 12 月 30 日、110 回生同窓会「金色会」が開催された。（於：ぬのはん）それぞれ近況を伝え合い旧交を温めた。また、先生方にも多くご参加いただき大変楽しい時間となった。私自身は 24 歳、社会人 2 年目であり、多くの皆がこれからの人生の節目である「今」をがんばっていると感じた。最後は「金色の民」で盛大に締めくくられた。 （学年幹事中村智哉記）

諏訪清陵サッカー部 OB 会創設

植松安彦（80 回）

2011 年 8 月 14 日、高校卒業から 30 余年、いずれいつかはと待ち望んだ諏訪清陵サッカー部 OB 会が遅ればせながらも設立された。創部 74 回生から 80 回生の 7 世代メンバーが集まり、「OB 会員間の親睦と母校サッカー部の側面的支援のための活動を行うこと」を目的に、OB 会設立総会を開催して正式発足。同年同窓会定期総会で顔を会わせた OB メンバー数名から発足の機運が高まり、数回の準備会を経て創設された次第である。

我々の現役時代は、諏訪地方の中学・高校にサッカー部が創設され始めたころであり、サッカーというスポーツが世の中に認知され始めた時期であった。そんな中、創部早々の 76 回生チームは南信大会で見事優勝の快挙を達成して部活動も一段と盛り上がりをみせた時期であった。

OB 会の主たる活動は年一回開催の総会である。昨年は設立総会での誓いに従い、総会前に無謀にも若手 OB 戦に参加、最も若輩のわれわれ 80 回生が 50 代半ば、先輩たちは還暦間近とあってさすがに年寄り OB チームでの単独参戦は憚られ、若手 OB チームに交じって現役との親善試合となった。ゲーム開始前は、現役高校生との試合などいかななものかと思ったものの、諸先輩含めて真剣勝負を挑む姿には現役時代を彷彿させる場面も。

また同年 5 月には、J2 松本山雅 FC ホームゲームをアルウィンにて観戦。今でこそ日本代表も、ワールドカップ本大会出場が当然の感であるが、我々の現役時代はまさに

夢のまた夢の時代、世界との差を感じながら一生に一度でよいからワールドカップ出場をこの目にしたいと思っていたあのころ。近隣の松本市にプロチームができ、ホームゲームで 1 万人を集めるなどとは夢だにできなかった。これも 30 余年の時のなせる業なのであろうかと感慨に浸りながらの観戦であった。

そして本年は、もう一つの設立趣旨である現役世代への支援活動として、練習環境を少しでも向上させるべくミニゴールやグラウンド整備器具等を贈ることを検討している。

OB 会に関して私個人の思いを記すと、かつてともに夢中になってボールを蹴った仲間たちと再び顔を合わせ、サッカーの虜になった一人として幾つになってもボールを蹴り続けることである。もちろん、アフターの酒席でのサッカー談義も同様に重要であることは言うまでもない。今現在は、創部 74 回生から 80 回生までの会員のみであるため、さらなる発展を目指して 81 回生以下の OB を含めて 1 人でも多くの OB を捜している最中である。この記事を読んだ OB 諸氏には是非とも下記に連絡を頂戴したいと思っている。

創部から何とも長い年月が流れたわけであるが、卒業後の一人ひとりの様々な思いの中で多くのメンバーが是非とも参加したい OB 会となるようお願いながら…

諏訪清陵サッカー部 OB 会ホームページ：http://sssob.6 ql.bz/



清陵高校クラブ後援会（3 者）会計報告（PTA・同窓会・学友会）

平成 9 年度に P T A ・同窓会・学友会により結成された「清陵高校クラブ後援会」も発足以来 16 年を経過いたしました。同窓会からは会員各位のご理解を得るなか、この 16 年間に 4248 万円の援助をいただいてまいりました。

平成 24 年度は、延べ 137 の大会に約 1700 名の生徒が「清陵」の名を背負って参加し、頑張ってまいりました。中でも端艇部、陸上部、古典ギター部、かるた部、書道部、生物部、イングリッシュ部、音楽部が全国大会に出場するなど、栄誉ある成績を収めることができました。

その他、各種大会に参加するための生徒遠征費や校外の施設を使用することによる施設使用料に対する補助も実施いたしました。

なお、すでに各クラブとも前年以上の成績を目指して部活動に入っており、引き続き絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（学校事務長：長崎 淳）

「清陵高校クラブ活動同窓会後援会」入会のお願い

平成 9 年度の定期総会において「母校のすべてのクラブ・同好会に関して、母校を代表して各種大会等へ出場する場合の生徒遠征費等を支援すること」を目的に標記の後援会が発足致しました（詳細は平成 9 年発行の「会報第 23 号」参照）。

平成 9 年度からの 5 年間（第 1 次）に 1,730 名からご協力（入会）を頂き、平成 14 年度からの 5 年間（第 2 次）は 1,701 名、平成 19 年度からの 5 年間（第 3 次）では 1,239 名、さらに第 4 次の平成 24 年度は 1 年間で 535 名のご協力を頂きました。その結果、昨年度まで合計 4,248 万円を母校に贈ってきています。ご協力ありがとうございました。

最近 6 年間の実績

	年 度	協力金額	協力者数
第 3 次	平成 19 年	3,526,260 円	356 人
	平成 20 年	2,483,920 円	252 人
	平成 21 年	2,491,963 円	246 人
	平成 22 年	1,958,280 円	198 人
	平成 23 年	1,841,480 円	187 人
第 4 次	平成 24 年	5,270,660 円	535 人

昨年度から第 4 次（平成 24 ～ 28 年）に入っているわけですが、毎年この「同窓会報」発送の折に会費（5 年分 10,000 円）のご協力を頂きたく「振込取り扱い票（郵便振替用紙）」を同封してあります。

この数年は運動系のクラブのみならず、文化系のクラブ

平成 2 4 年度クラブ活動後援会（3 者）会計決算

収入総額	10,308,100 円
支出総額	9,791,032 円
差引残高	517,068 円

収入の部 (単位：円)			
科 目	予算額	収入済額	差引増減
繰 入 金	9,080,000	9,080,000	0
県費等補助金	272,000	580,315	308,315
雑 収 入	464	249	-215
繰 越 金	647,536	647,536	0
合 計	10,000,000	10,308,100	308,100

支出の部 (単位：円)			
科 目	予算額	支出済額	差引増減
生 徒 遠 征 費	6,750,000	6,435,234	314,766
大 会 参 加 費	1,500,000	1,671,600	-171,600
登 録 料	900,000	885,400	14,600
施設使用料	800,000	781,690	18,310
事 務 費	20,000	17,108	2,892
予 備 費	30,000	0	30,000
積 立 金	0	0	0
合 計	10,000,000	9,791,032	208,968

も活発な活動を展開し、特に昨年度は、生物部・音楽部・古典ギター部・書道部・イングリッシュ部・かるた部がそれぞれ全国大会等に参加して高い評価を得るなど、文武両道の活躍が目立ってきており、その結果「クラブ後援会費」の支出が増えています。

後輩のためにも「学友会・PTA・同窓会」の 3 者からなる「清陵高校クラブ後援会」に是非ともご協力をお願い致します。

ご送金方法

○同封の「ゆうちょ銀行 払込取扱票」でお願い致します。振込手数料は無料ですが、節約のため、可能な限り ATM をご利用願います。

○ご都合で 5 年分一括でない場合は、金額を訂正してお振り込み下さい。

○銀行等への振り込みの場合は下記口座へお願いします。手数料はご負担頂ければ幸いです。

口座名：清陵クラブ活動同窓会後援会

八十二銀行 諏訪支店 普通 689—629

諏訪信用金庫 上諏訪支店 普通 1049944

「ゆうちょ銀行」以外の振込の場合は 差出人のふりがな欄に必ず回生 をご記入下さい（例 80 カイ セイリョウ タロウ）。

平成 24 年度 諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会 会計決算報告

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

収入の部

費 目	収入額	備 考
繰 越 金	1,742,954	前年度より
会 費	5,270,660	535 名
繰 入 金	3,000,722	定期預金取り崩し
雑 収 入	1,190	預貯金利子
合 計	10,015,526	

支出の部

費 目	支出額	備 考
抛 出 金	2,950,000	学校後援会へ
事 務 所 費	58,275	振替用紙印刷代
合 計	3,008,275	

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会基金（平成 25 年 3 月 31 日現在）

種類	預入先	金 額	利 率	期 間	満期日
普通定期（単利）	諏訪信用金庫	1,400,280	0.025%	1 年	H26.4.4

クラブ後援会会員芳名（敬称略）

以下の名簿は第 4 期（平成 24 年～ 28 年）クラブ後援会会費をお振り込みくださった方々です。

回生	氏 名	42 回	小池 亮治	47 回	伊藤 岩廣	49 回	久保田 貢	50 回	根橋 郁雄
30 回	中島 和市	42 回	小松 廣	47 回	久保 祐雄	49 回	小池 久	50 回	浜 邦夫
31 回	宮坂 水穂	42 回	山田 保	47 回	高見 勝補	49 回	小池 光麿	50 回	林 謙二
31 回	矢島 茂弘	42 回	山田 藤雄	47 回	茅野 茂治	49 回	酒井 喜彦	50 回	平出 勝郎
36 回	中村 清寿	43 回	今井五十二	47 回	平出 康彦	49 回	鈴木 邦彦	50 回	河西 行彦
36 回	吉江 住次	43 回	北原 善次	47 回	松田 庸夫	49 回	高尾 利数	50 回	吉田 守
37 回	宮澤 康夫	43 回	小泉 末也	47 回	翠川 昭久	49 回	名取 章	51 回	今井 好昭
38 回	笠原 明	44 回	五味 誠	47 回	宮坂 正昭	49 回	林 厚彦	51 回	金子 隆一
38 回	金丸 寿男	44 回	原 幸宜	48 回	伊藤 順一	49 回	藤本 隆晴	51 回	小平 拓
38 回	小林 克己	44 回	丸山 数馬	48 回	川北 利雄	49 回	宮坂 敏彦	51 回	島立 明幸
38 回	立木 正純	44 回	宮坂 貢	48 回	川窪 純光	49 回	宮坂 久臣	51 回	進藤 八郎
38 回	藤森 千史	45 回	今井 保穂	48 回	北原 治房	49 回	山岡 利行	51 回	関 光雄
38 回	矢ヶ崎孝雄	45 回	植松 康郎	48 回	木下 芳英	49 回	山田 早苗	51 回	平出 碩朗
39 回	栗林 松治	45 回	北澤不二彦	48 回	小林澄三郎	50 回	伊藤 友彦	51 回	宮坂 順一
40 回	小口 多聞	45 回	林 四郎	48 回	酒井 雅義	50 回	岩田 昌久	51 回	宮坂 祐次
40 回	加々見一郎	45 回	坂田 清次	48 回	小池 賢	50 回	牛山 博美	51 回	矢崎 斉男
40 回	野口 朝一	45 回	藤森 弘國	48 回	溝口 章夫	50 回	小口 順吉	51 回	山崎 壮一
40 回	林 牧男	46 回	今野 廣久	48 回	矢嶋 國夫	50 回	小坂 幸三	51 回	横川 端
41 回	馬場 治久	46 回	小口 久市	48 回	山岡 正邦	50 回	唐澤 重雄	52 回	浦野 実
41 回	小松 善孝	46 回	小松 健彦	48 回	山村 泰彦	50 回	小松 横芳	52 回	河西 節郎
41 回	増澤 康正	46 回	武井 厚隆	49 回	今井 千浩	50 回	五味 郁夫	52 回	金子 信也
41 回	松田 保人	46 回	千野 貞夫	49 回	上原 秀秋	50 回	五味 隆俊	52 回	小島 保
41 回	矢島 千晴	46 回	細川 昭	49 回	小沢 裕	50 回	坂本 有隣	52 回	白川 太一
42 回	小口 千晴	46 回	宮沢 信雄	49 回	片瀬 豊	50 回	竹村 一司	52 回	千野宗之進

WISM

高度医療を支える
最新医療機器・医材と情報の提供

ハトヤメディカルサポート株式会社

代表取締役社長 小口佳彦(80回生)

本社 〒392-0015
諏訪市中洲三ツ俣5709-31
TEL 0266(52)1555(代表)
営業所 松本・茅野

FUJISEIKI

株式 富士精機製作所
会社

代表取締役副社長 小 林 延 常 (80回)
取締役製造部長 小 林 賢 三 (83回)
〒399-0101 長野県諏訪郡富士見町境5986-1
TEL 0266-64-2211 FAX 0266-64-2210

52 回 浜 一栄	57 回 溝口 藤雄	60 回 植松 峯夫	62 回 中島 澄雄	65 回 小松 誠
52 回 林 尚孝	57 回 和田 昭通	60 回 笠原 文武	62 回 長田 宏子	65 回 五味 正明
52 回 降幡 泰夫	58 回 河野 瑳智子	60 回 鎌倉 剛一	62 回 中村 重紀	65 回 竹村 友一
52 回 宮坂 貞	58 回 伊藤 長城	60 回 久保田 一夫	62 回 浜 武秀	65 回 中野 明
52 回 米澤 時雄	58 回 伊東 史博	60 回 小平 徳次	62 回 濱 弘章	65 回 林 弘道
55 回 五味 省七	58 回 今井 正喜	60 回 小平 宏	62 回 細川 宣臣	65 回 藤森 邦秀
56 回 市川 兼三	58 回 岩佐 時雄	60 回 小林 智昭	62 回 水野 至	65 回 保坂 俊正
56 回 植松 一男	58 回 笠原 忠夫	60 回 五味十四昭	63 回 荒木 信行	65 回 細川 直吉
56 回 荻原 能男	58 回 小平 伯満	60 回 篠原 健	63 回 尾澤 弘久	66 回 小口 俊吉
56 回 河西 啓二	58 回 小林二三二	60 回 関 輝雄	63 回 金井 修	66 回 小池 洋司
56 回 酒井 利男	58 回 五味 康躬	60 回 高木 祥勝	63 回 小松 廣茂	66 回 五味 洋
56 回 三溝 善一	58 回 繁宮 伯行	60 回 田口 稔	63 回 清水 洋右	66 回 佐藤 武夫
56 回 清水 東	58 回 菅沼 伸梧	60 回 名取 正富	63 回 高木 鐵也	66 回 武内 廣盛
56 回 下平 勝幸	58 回 名取 次夫	60 回 原 俊安	63 回 千野 拓生	66 回 中村 俊夫
56 回 武居 浩明	58 回 花岡 孝次	60 回 平林 國男	63 回 鶴巻 健彦	66 回 原 護
56 回 武居 弘	58 回 原田 真弓	60 回 藤森 和弘	63 回 春宮 明宣	67 回 今井 豊
56 回 土橋 平治	58 回 藤森 照尚	60 回 藤森 弘	63 回 平井 満	67 回 小池 光二
56 回 土橋平太郎	58 回 御園 廣實	60 回 堀 浩	63 回 平澤 豊満	67 回 高木 智彦
56 回 林 正高	58 回 宮坂 栄治	60 回 高岡 正則	63 回 藤森 宏一	67 回 中村 哲夫
56 回 保科 正明	58 回 宮澤 立朗	60 回 柳澤 忠志	63 回 降幡 久夫	67 回 笠原 充雅
56 回 三沢 理一	58 回 矢嶋 聡	60 回 横内 仁	63 回 牧 成治	67 回 矢崎 太造
56 回 宮本 巻	59 回 赤沼 光彦	60 回 吉山 善博	63 回 松木 義文	67 回 矢萩 哲也
56 回 望月 均	59 回 朝倉 周一	60 回 米沢 豊	63 回 松野 洋一	67 回 吉江 幸次
56 回 淵上 良子	59 回 伊藤 忠三	61 回 小澤 興	63 回 丸山 佳広	67 回 芳沢 勝利
56 回 矢崎 和雄	59 回 牛山 孝	61 回 河西 康次	63 回 水野 俊彦	68 回 伊藤 八郎
56 回 矢崎 源吉	59 回 小川 勝嗣	61 回 河野 靖好	63 回 宮坂 尚利	68 回 小口 定男
56 回 渡部 清	59 回 金子 政喜	61 回 川村 昌平	63 回 山田 善彦	68 回 長田 伊史
57 回 天野 丈久	59 回 小林 征史	61 回 小林 信一	63 回 吉原 千文	68 回 大和 一男
57 回 大井 利夫	59 回 小松 巖	61 回 小林 光男	64 回 鮎沢 宏威	68 回 小平 貢
57 回 小口 敦巳	59 回 白倉 徹哉	61 回 古村 民司	64 回 有賀 詔	68 回 宮原 功
57 回 大和 一昭	59 回 城取 俊昭	61 回 平野 国政	64 回 石原 千明	68 回 林 隆憲
57 回 上島 武	59 回 進藤 健司	61 回 堀川喜代太郎	64 回 小口 博義	69 回 小川 正男
57 回 小林 宏	59 回 鮎沢 茂登	61 回 宮坂 真也	64 回 小松 新平	69 回 小野 新正
57 回 篠原 康夫	59 回 原 宏一	61 回 高見澤忠明	64 回 五味 孝臣	69 回 権東 明
57 回 白田 充	59 回 細野 祐	61 回 柳平 啓明	64 回 堀内 啓史	69 回 比田井昌英
57 回 武居 幸重	59 回 松澤 俊志	61 回 横山賢太郎	64 回 中山 正彦	69 回 茅野 勝彦
57 回 武田 進吾	59 回 松下 勲	62 回 石城 祐吉	64 回 山田 卷義	69 回 津金 正典
57 回 竹田 守男	59 回 宮澤平八郎	62 回 九津見生哲	64 回 山本 建夫	69 回 花岡 正
57 回 茅野 嘉利	59 回 山崎 雄二	62 回 牛山 一	64 回 横内 稔	69 回 比田井和子
57 回 中澤 富夫	59 回 山田 正幸	62 回 金子 浩之	65 回 飯田 正孝	69 回 真野 恒夫
57 回 永島 豊	59 回 吉田 英登	62 回 北澤 夏司	65 回 池田 昌純	69 回 両角 高三
57 回 林 幹人	60 回 池場 康友	62 回 瀧澤 盛夫	65 回 伊藤 速一	69 回 矢澤 博
57 回 松澤 宏昭	60 回 今井 将隆	62 回 田中万亀男	65 回 小林 一彦	69 回 柳平 三雄

内科・外科胃腸科・整形外科・脳神経外科

医療法人
祐愛会

祐愛病院

理事長 辛 京硯(61回)

病院長 朱 尚孝(81回)

〒394-0033 長野県岡谷市南宮2-2-34

TEL0266-23-0222 FAX 0266-23-2261

69 回 山崎 卓	75 回 五味 文彦	82 回 村上 裕昭	90 回 伊藤 浩平	105 回 宮坂 洋輔
70 回 小林 光廣	75 回 徳嵩 昇一	83 回 新澤みどり	90 回 小河原一浩	105 回 矢花 之宏
70 回 清水 英俊	76 回 小口 直彦	83 回 小野 博正	90 回 小河原綾子	106 回 田村 隆
70 回 丸山 嘉夫	76 回 龍岡 達子	83 回 岡本 徹	90 回 坂口 みほ	107 回 秋山 緑
70 回 平山 哲三	76 回 野口 幹夫	83 回 長田 秀夫	90 回 古村 雅利	107 回 花岡 美智
70 回 藤森 行雄	76 回 横澤 達郎	83 回 松崎 任宏	90 回 武田 哲夫	108 回 津金みほろ
71 回 小口順一郎	77 回 小口 晋平	83 回 矢嶋 哲	90 回 矢崎 宏明	108 回 山田 恵介
71 回 加藤 博明	77 回 小口 武男	83 回 矢島 充博	90 回 矢澤 勲	109 回 足助 みわ
71 回 五味 常明	77 回 田添 珠実	84 回 尾澤 永敏	91 回 小口 和也	110 回 伊藤 千夏
71 回 近藤 知雄	77 回 薩摩林恭子	84 回 野村 典亨	91 回 藤森 完一	110 回 片倉 正浩
71 回 齊藤 茂	77 回 平出 美彦	84 回 羽田 憲彦	91 回 堀内 大吾	110 回 田村 聡
71 回 浜 研一	78 回 足立 孝幸	84 回 原藤 健紀	91 回 矢澤 哲也	111 回 武居 雅樹
72 回 鮎沢 永	78 回 小口 正彦	84 回 古厩千真規	92 回 小竹 直子	112 回 小濱 卓也
72 回 新井 滋平	78 回 釜洞 修一	84 回 柳澤 永樹	92 回 竹内 良之	112 回 細田 由貴
72 回 市村 敏夫	78 回 桑原 誠	84 回 具 保	92 回 新村 克英	113 回 飯澤 瞳
72 回 植松 昌弘	78 回 登玉 秀文	85 回 片桐ゆかり	92 回 藤森 伝太	113 回 石田 朋大
72 回 笠原 初雄	79 回 飯田 良	85 回 永田 直也	92 回 望月 一弘	113 回 矢崎 晃未
72 回 笠原 勇二	79 回 市瀬 章	85 回 立花 美香	93 回 水品 善之	114 回 安達由紀子
72 回 竹内 章	79 回 小平 茂雄	85 回 降旗 美晴	93 回 宮坂 清	114 回 雨宮 宙大
72 回 林 健康	79 回 小林 健	86 回 北原 雄一	94 回 原田 充	114 回 小坂 一貴
73 回 浅川 辰司	79 回 高木 保夫	86 回 清水 俊樹	94 回 藤森 賢也	114 回 辻村 朋子
73 回 岡野 健	79 回 秋山 良子	86 回 板橋 美佐	95 回 北原 克彦	114 回 矢崎 和貴
73 回 吉川 悟	79 回 花岡 繁	86 回 伊藤佐与子	95 回 小松 貴弘	115 回 小口 拓真
73 回 小池 忠男	79 回 原田 健	86 回 細田 明	95 回 辛 宣廣	115 回 金子 圭佑
73 回 佐藤 健介	79 回 平出 義明	86 回 増沢 健二	95 回 御園健一郎	115 回 小林 貴紀
73 回 武井 孝博	80 回 飯沢 隆	86 回 柳澤 孝史	95 回 柳澤 由紀	115 回 篠原 映美
73 回 武居 俊雄	80 回 白田 和生	87 回 有賀 誠司	96 回 五味 弘行	115 回 友枝 勝登
73 回 鳥羽 研二	80 回 石川ふみ子	87 回 長澤 薫	96 回 平林 一也	115 回 増澤 拓也
73 回 平塚 唯史	80 回 辻 洋	87 回 牛山 高彦	97 回 市川 壮一	115 回 森 みのり
73 回 堀田 文昭	80 回 花岡 孝幸	87 回 茅野 匡浩	98 回 中村 勇樹	115 回 渡邊 泰樹
73 回 山田 文雄	80 回 原田 信	87 回 村田 和広	99 回 青木 大輔	
74 回 大滝 精一	80 回 溝口 到	88 回 河口 利男	99 回 遠藤 健央	
74 回 高木 健治	80 回 矢島 茂人	88 回 栗原 清恵	99 回 小澤 美緒	
74 回 土橋 英一	81 回 伊藤 洋一	88 回 関 恵世	99 回 花岡 洋成	
74 回 濱 健夫	81 回 大滝 祐吉	88 回 須藤美香里	100 回 林 敬祐	
74 回 三井 常夫	81 回 小口輝美朗	88 回 中村 昌弘	101 回 小池 賢志	
74 回 矢崎 智義	81 回 田中 輝明	89 回 大野 美江	101 回 平澤 賢市	
74 回 湯原 利文	81 回 矢島 俊樹	89 回 今井聡一郎	102 回 小林真知子	
75 回 伊藤 弘志	82 回 小野 隆吾	89 回 植松 秀生	102 回 松尾 花子	
75 回 河西 安造	82 回 五味 康二	89 回 打保 直樹	104 回 高瀬 裕美	
75 回 飯森裕見子	82 回 五味 幸則	89 回 小口 亘	105 回 荒井奈々恵	
75 回 工藤 信一	82 回 佐野 研二	89 回 村上伸一郎	105 回 佐藤 広太	
75 回 栗林 利治	82 回 土田 知明	89 回 矢島 和明	105 回 中村 貴帆	

株式会社 河西精機製作所

代表取締役 河西 克司 (80回生)

〒392-0015

長野県諏訪市中洲 4720 番地

TEL 0266-52-1375

FAX 0266-52-1396

今井整形外科

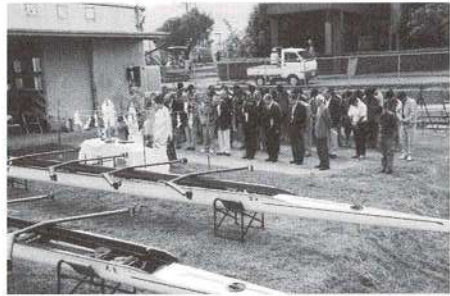
院長 今井 智彦 (78 回生)

〒394-0081 岡谷市長地権現町 3-2-12

TEL 0266-28-9933

伝 言 板

端艇部新艇購入に感謝



昨年は端艇部創部 111 周年と数並びのいい記念すべき年であった。その年に 2 艇のイタリアフィリップ社製のクオドルブル

ルを端艇部 OB 会、保護者会、同窓会等の寄付活動によって購入することが出来た。購入するに至った経過等、紙面をお借りして紹介したい。

10 年前に OB 会を中心に購入いただいたクオドルブルの“英傑”と“朝嵐”が勝負艇として数々の名勝負を演じてきたが、ここ数年トップコックス（コックスが艇の前）艇が全国の主流の勝負艇になり、なんとか艇を購入出来ないかと OB 会に相談したところ、茅野嘉利（57 回）会長を中心に話があっという間にまとまり購入することになった。“清陵高校にボートを贈る会”が組織され、山崎壮一（51 回）発起人代表を中心に寄付活動も短期間で目標金額となった。このことは、全国大会に参加したさい他県チームから「清陵の団結力はすごい、羨ましい」という言葉からもわかるように、多くの方の熱い思いと行動力の現れであろう。

新艇の名前は校歌にある“天竜”“富士”となり、現役生の練習に取り組むモチベーションに大きな影響を与えている。多くの方に支えられて部活動が出来ることに感謝し、トップスピードで艇が走り、そして、OB 会や同窓会の期待に応えるべき毎日の練習に励みたい。

端艇部顧問 濱 勝彦（87 回）記

清陵高校付属中学の制服決まる

伝統ある諏訪清陵が新たな歴史を築くことをイメージして、歴史と伝統のある「詰め襟」、「セーラー」を現代的にアレンジしました。

男子は低いスタンドカラー、女子は前あきなど機能性を重視しています。

制服には 3 本ラインが入っています。3 本のラインは、水色が諏訪湖、紫が八ヶ岳、青がその上に高く広がる空をイメージし、諏訪の風土と高い精神性を表しています。そして、胸に校章が刺繍され、ボタンは済んだ青空をイメージしたブルーの文字色で学校名を入れ、オリジナリティが高いものにしてあります。

県立中学校として品位や連帯感が持て、公的な儀式にも適するように、中学生は学校指定



制服を着用することとします。なお、義務教育課程を修了した高校生からは、自立の節目として制服を自由とします。

— あの日がよみがえる —
好評！ 校舎模型

昨年 10 月から東京清陵会が販売している「清陵校舎模型」は購入された方々から好評を博している。



この校舎模型は清陵模型同好会メンバー、市村高彦さん（78 回）が「定年後の楽しみ」として秘かにアイデアを温めてきたもので、製作には市村さんと、やはり模型同好会の 79 回生丸山重久さんが携わったが、設計段階から相当綿密な作業を行ってきた。特に当時の校舎のデータが少ないことから、写真などを参考に様々な角度から調査を重ね、何度も試作を繰り返し精度の高いモデルが完成した。市村さんによると、あの校舎は物資の不足している時代に建築され、継ぎはぎしたような構造で屋根の形状も変わっていたり、窓も統一されていなかったりと「きれいにそろっていない」ため細部の製作にかなり苦労したようである。

購入していただいた方々からは、「あの頃の思い出がよみがえる」、「ずっと眺めていても飽きない」など、校舎模型から古き良き清陵時代に思いを馳せている様子が見え、中には「出張中、勝手に嫁に作られてしまったので、もう 1 セット購入したい」とか「娘が下宿に持って行ってしまったので、また注文します」といった声も寄せられている。

われわれに当時を思い起こさせてくれるのは、校歌と校舎です。まだこの感動を手になされてない方は、ぜひこの機会にお申し込みください。

申し込み先：東京清陵会事務局（03-3812-5887）

価格：1 セット ¥3,500

諏訪清陵高校 OB・OG
第 100 回記念諏訪湖一周マラソンのご案内

恒例の諏訪湖マラソンは、本年第 100 回の記念の年を迎えました。例年のとおり母校の伝統行事に加えてもらい OB・OG 大会を同時開催いたします。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内いたします。

1. 日 時 10 月 24 日（木）女子 8:40、男子 9:00 スタート
2. コース スタート・ゴール 湖畔石彫公園 約 19.4km
3. 受 付 湖畔石彫公園スタート地点 午前 8 時よりゼッケン受け取り後スタート地点へ。終了後懇親会（片倉館）
4. 参加費 マラソンのみ 2,000 円 懇親会まで 3,000 円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合は受付時に判断。

諏訪湖マラソン OB 会

会長 牛山 孝（59 回） 会計 唐沢千明（76 回）

問合せ先 原 英充（65 回）電話 0266-28-3547

名簿編集委員会からのお知らせとお願い

委員長 古原 正之（59 回）

1. 昨年度の経過報告

名簿作成資料（同窓会報に同封）の総送付部数 20,311 通
訂正等情報提供（返信）の総数 約 4,750 通（全体の 23.4%）
名簿購入希望数 1,349 件（目標の 27.0%）
特別会計収支実績 1,779,772 円（見積りの 57%）

2. 今年度の推進計画

第 2 回目の調査を実施します。

本同窓会報に同封されたアンケートには名簿に記載される内容が記入されています。訂正等の情報をお寄せください。合わせて、名簿購入希望の有無確認も行います。

情報提供の総数及び名簿購入希望数は前回発行時の約半数と低調です。不明者の情報、自己の情報、名簿購入等、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

昨年の同窓会報の発送に際して新たに音信不通となられた方々（生存者）

32 回 矢島 一清	47 回 高林 利夫	松澤 良治	72 回 宮坂 吉雄	小池 弘成	片庭恵美子	104 回 小平 絵里
33 回 尾澤 敏男	茅野 春雄	林 道哉	小口 裕治	80 回 山岡 健治	89 回 矢花 克也	105 回 田中 秀和
37 回 山田 義隆	工藤 健輔	63 回 坂本 文雄	73 回 春日ちづ子	81 回 鈴木 博	宮坂 淳	山岸 梓
38 回 松沢 俊夫	49 回 小松 英彦	瀬戸 直人	清水 光昭	小平 均	91 回 窪田 一成	小山 泰史
39 回 桜井 和人	50 回 長峰 忠利	65 回 河西 峯生	74 回 成尾 芳博	82 回 土橋 康樹	92 回 大竹 俊裕	106 回 上原恵里奈
宇野 元春	51 回 野沢 尚博	67 回 田中 茂	75 回 河西彦一郎	83 回 小山 稔	94 回 梶野 弘樹	107 回 山岸 希
小池 啓善	51 回 野沢 尚博	68 回 倉田 直道	76 回 山岸 尚志	菊池 克彦	小池 朋弘	109 回 古橋 遊
40 回 河西 寛	宮坂 幸人	渡辺 弘一	76 回 和形 隆志	藤森 敬一	95 回 小松 恒雄	111 回 小河原 藍
松沢 弘	河西 敏博	花岡 祐吉	名取 秀夫	84 回 長田 誠	名取 喜彦	小嶋 晃弘
42 回 藤森 敏雄	松縄 清	69 回 西沢 忠篤	77 回 山田 秀裕	85 回 小口 政英	96 回 原 孝幸	112 回 矢崎 史裕
鋤柄 正視	52 回 味沢 正治	宮坂 正幸	北原 秀彦	山口 亨	市瀬 大久	114 回 小坪 美穂
43 回 小口喜三男	56 回 飯嶋 三郎	小山 豊明	79 回 林 久喜	有賀 正和	97 回 柳沢 由紀	115 回 小野 隆明
44 回 御園 喜博	和田 守生	70 回 中村 良一	中嶋 勝徳	86 回 備前 秀一	99 回 共田 貴彦	小林 富司
町田 福三	58 回 熊谷 致	71 回 松澤 祥司	小野 光尚	87 回 小林 祐一	上垣外孝弥	芦田 愛貴
46 回 味澤 康夫	61 回 柳平 武紀	岡村 哲郎	横田 一裕	今井 崇	101 回 飯高 基	

事務局だより

事務局長 林 隆憲（68 回）

気付けば早一年、驚くほど速い時の流れでした。

この間、国内は政権が交代して政治経済に大きなうねりがあり、さらに外交面でも激動の時にありました。母校におきましては、現在「中高一貫校開校」「120 周年記念事業」と歴史に残る大事業が展開されています。その後、慣れない新しい仕事に一刻も早く同化したいと努力して参りましたが、想像以上の広い間口と深い奥行きがありました。

こうした 1 年の中で、定期総会・支部総会・役員会・日常の電話メールファックス手紙などを通して皆様のお考えをお聞きしつつ思い至った最たる案件は、「同窓会活動の停滞傾向」ということです。これにつきましては、特に支部役員の方々が日々苦悩されているところだと痛感いたしました。卒業生約 28,000 名の大きな組織がどのようにしたらダイナミックに動き出すかということですが、今後この件に関する議論討論の場面を「幅広い年齢層」「男女共同参画」などといった要素も含めながら数多く設定し、より充実した同窓会活動になればいいと思っています。

明治 28 年（1895 年）「諏訪郡立実科中学校」として開校以来、120 年の時を経て諸先輩方が営々と築いてこられた「諏訪人氣質（上伊那等も含め）」が熟成された「清陵魂」を、断つことなく更にいっそう磨いて次世代に渡すことを目指していきたいと思っています。当会には「清陵会館」という立派な施設がありますし、当館には歴史的価値のある文書や写真なども保管してありますので、同窓会に係わる会議や諸活動に、お気軽に活用して頂きたいと思ひます。

「同窓会がより活発に動けば現役の生徒にも必ず好影響を与える」ことを信じて、もとより微力な私ですが、精一杯努めて参りたいと考えています。どうぞ、引き続き多くの皆様のご意見をお気軽に事務局にお寄せ下さい。

最後になりましたが、実業界に偉大な足跡を残され、本同窓

会におきましても 10 年の長きに亘って同窓会長としてお世話になりました山田六一様が、先の一月にご逝去されました。ご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌
追伸 1 母校生徒の湖周マラソンが、本年「第 100 回」になります。多くの皆様のご参加をお待ちしています。
追伸 2 昨年古希を迎えられた「ザザムシの会（64 回）」より、母校に 20 万円を寄付されました。これにより学校備品として「Victor ポータブルワイヤレスアンプ PE-W50」を購入しました。

◎平成 25 年度学校同窓会係および事務局

濱 恒弘（78 回）今井 隆（83 回）辻 清隆（86 回）吉田 和正（79 回）小宮山 健司（87 回）奥村 達朗（86 回）百瀬 登（92 回）長崎 淳（学校事務局長）

事務局長 林 隆憲（68 回）原則的には月・木曜日出勤

電 話：0266-58-0356

F A X：0266-57-0348

E-mail：dousoukai@suwaseiryo.jp

HP：http://www.suwaseiryo.jp/



工事中の中学校校舎